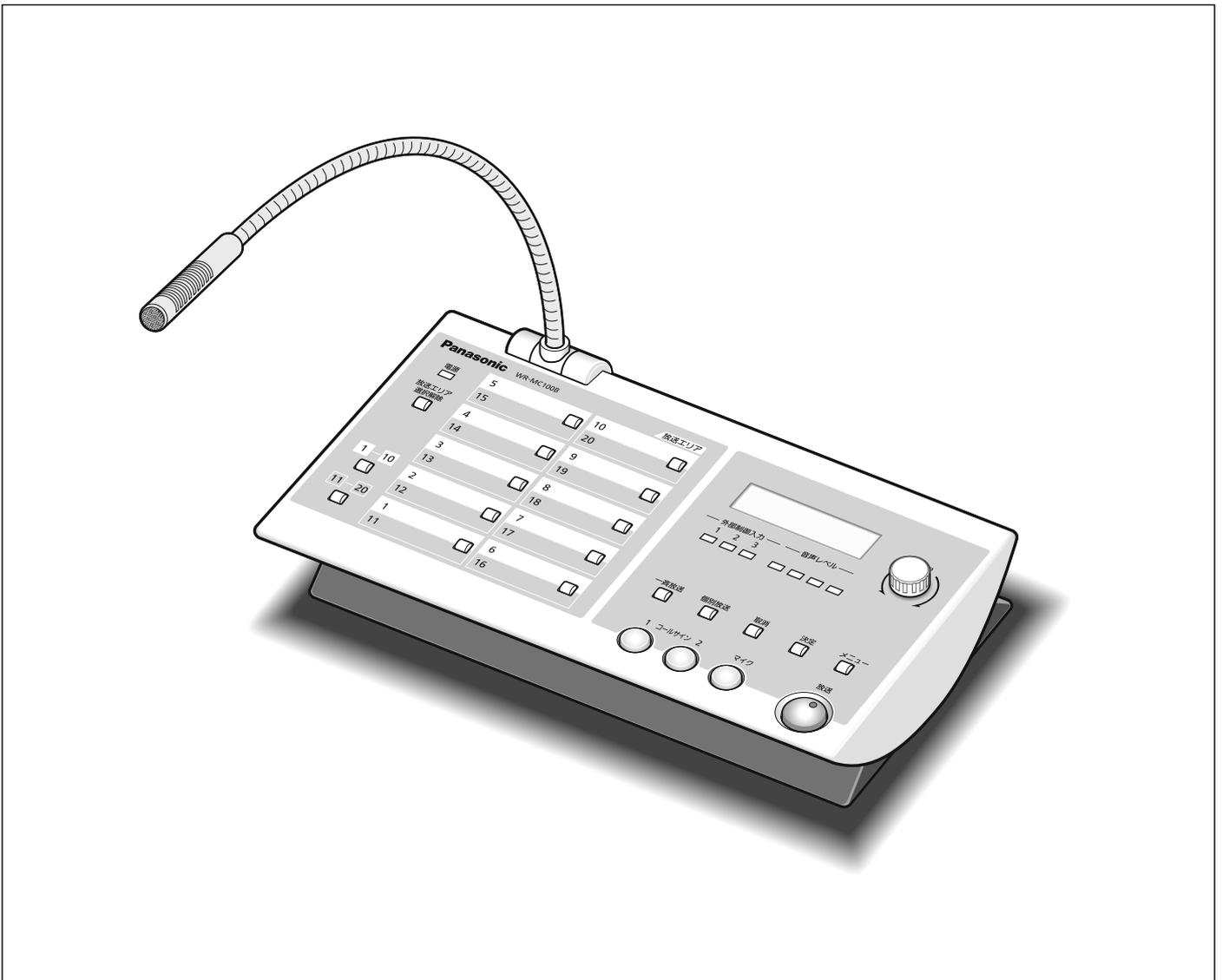


取扱説明書

工事説明付き

マルチリモコンマイク 品番 WR-MC100B



保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(4~5ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

はじめに

商品概要

本機は、業務放送用途を目的としたラック形非常用放送設備WL-8000シリーズ、WL-8000Aシリーズ、壁掛形非常用放送設備WK-EK110、WK-EK115、WK-EK120、WK-EK110A、WK-EK115A、WK-EK120A、WK-EK310、WK-EK320、WK-EK330、業務放送システムWL-K600用のマルチリモコンマイクです。

- WK-EK110、WK-EK115、WK-EK120、WK-EK110A、WK-EK115A、WK-EK120A、WK-EK310、WK-EK320、WK-EK330には最大4台接続できます。WL-8000シリーズ、WL-8000Aシリーズ、WL-K600には最大8台接続できます。^{※1}
- 10個の放送エリア選択スイッチと放送エリア切替スイッチにより、20のエリア放送ができます。
- 一斉放送および放送先を個別に指定し放送する個別放送ができます。
- 外部音声入力端子を有し、外部音源機器などを接続して本機より放送することができます。また、外部音源機器から放送制御を行うことができます。
- コールサイン4曲を内蔵しています。
- 本機を接続する主装置側^{※2}に内蔵されたコールサインを、本機の[コールサイン]スイッチにより鳴動することも可能です。
- モニター用スピーカーを内蔵しており、コールサインや外部音声入力の音声をモニターできます。
- 制御出力端子(3回路)を有し、[コールサイン]スイッチや[マイク]スイッチなどに連動して出力することで、周辺機器の制御をすることができます。
- 液晶表示で機器の状態や設定内容を確認することができます。

※1 本機はDC24 Vで動作します。本機を接続する主装置の機種やシステムの規模によっては、ACアダプターWZ-MC100B(別売り)が必要になります。

※2 主装置とは、ラック形非常用放送設備WL-8000シリーズ、WL-8000Aシリーズ、壁掛形非常用放送設備WK-EK110、WK-EK115、WK-EK120、WK-EK110A、WK-EK115A、WK-EK120A、WK-EK310、WK-EK320、WK-EK330、業務放送システムWL-K600を指します。

付属品をご確認ください

取扱説明書(本書).....	1冊	保証書.....	1式
以下の付属品は取付工事に使用します。			
束線バンド.....	3	風防(本体取付済み).....	1

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損など不便・損害・被害
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、拡声ができないことなどで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 本商品の不良・不具合以外の事由(取付工事の不備、建屋側取付面の不良などを含む)による落下などによる不便・損害・被害

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

記号について

本書では、以下の記号を用いて説明しています。



：該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

もくじ

はじめに

はじめに	2
商品概要	2
付属品をご確認ください	2
免責について	2
著作権について	2
記号について	2
安全上のご注意	4
使用上のお願い	6
各部の名前とはたらき	7

操作

操作の前に	9
操作のしかた	10
電源を入れる	10
放送先の選択	10
放送のしかた	11
個別放送のしかた	12
マイク音量の調節のしかた	14

設置

設置のしかた	15
設置上のお願い	15
各部の名前とはたらき	16
据置型として使用する場合	17
壁面に取り付けて使用する場合	19
接続のしかた	22
線材について	22
ラック形非常用放送設備との接続	23
壁掛形非常用放送設備との接続	25
業務放送システムとの接続	29
外部音源との接続	31

設定

ユニット設定メニューについて	33
ユニットアドレスの設定	33
工場出荷時または設定初期化後の ユニットアドレス設定	33
ユニットアドレスの変更	34
ユニット設定メニューの表示	34
ユニット設定メニューの終了	37
ユニット設定	38
動作モードの設定	38
コールサイン音量の設定	39
コールサイン1音、2音の設定	40
コールサイン起動の設定	41
音声入力音量の設定	42
放送スイッチの設定	43
マイクスイッチの設定	44
外部制御出力1、2、3の設定	45
外部制御入力モードの設定	46
外部制御入力1、2、3の設定	47
液晶（LCD）バックライトの設定	48
パスワードの設定	49
設定の初期化	50

必要なとき

ユニット点検	51
電源電圧のチェック	51
バージョン番号の表示	51
故障かな!?	52
仕様	54
保証とアフターサービス	55

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

 **警告** 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

 **注意** 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

 してはいけない内容です。

 実行しなければならない内容です。

警告

 **工事は販売店に依頼する**
工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。
必ず販売店に依頼してください。

ねじやボルトは指定されたトルクで締め付ける
落下によるけがや事故の原因となります。

質量に耐える取り付けをする
落下や転倒によるけがや事故の原因となります。
● 十分な強度に補強してから取り付けてください。

設置の説明にしたがって壁にしっかり取り付ける
けがや事故の原因となります。

異常があるときは、すぐ使用をやめる
煙が出る、においがするなど、そのまま使用すると火災の原因となります。
● 直ちに販売店に連絡してください。

使用しなくなった、あるいは使用不可になった場合、放置せずに取り外す
種々の部品の腐食により、落下の原因となります。
● 必ず販売店に依頼してください。

 **不安定な場所に置かない**
落下や転倒によるけがや事故の原因となります。

禁止

異物を入れない
水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。
● 直ちに電源を切り、販売店に連絡してください。

雷のときは工事、配線をしない
火災や感電の原因となります。

 分解禁止

分解しない、改造しない
火災や感電の原因となります。

警告



水ぬれ禁止

機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない

水などが中に入った場合、火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源を切り、販売店に連絡してください。

使用上のお願い

「安全上のご注意」に記載されている内容とともに、以下の事項をお守りください。

使用温度範囲は

0℃～+50℃です。この温度以外で使用すると、内部の部品に悪影響を与え、故障または誤動作の原因となります。

携帯電話のご使用について

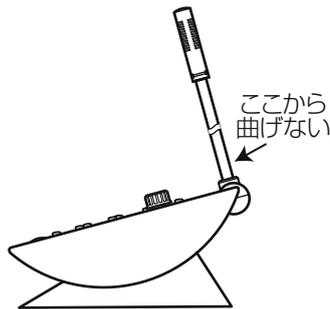
本機の近くでは、携帯電話等の無線機器のご使用は避けてください。放送にノイズが乗る恐れがあります。

本機を移動する場合は

- 必ず本体部と台座が固定されていることを確認し、台座を持ってください。固定されていないと落下などで故障の原因となります。
- フレキシブルマイク部を持って移動しないでください。故障の原因となります。

マイク部を口元に近づけるときは

マイク部に近い側を持って曲げてください。絶対に根元側から曲げないでください。破損の原因となります。



使用場所について

窓際など直射日光の当たる場所での使用は避けてください。直射日光により、選択したスイッチの点灯が識別できなくなります。また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

水滴が付いたときは

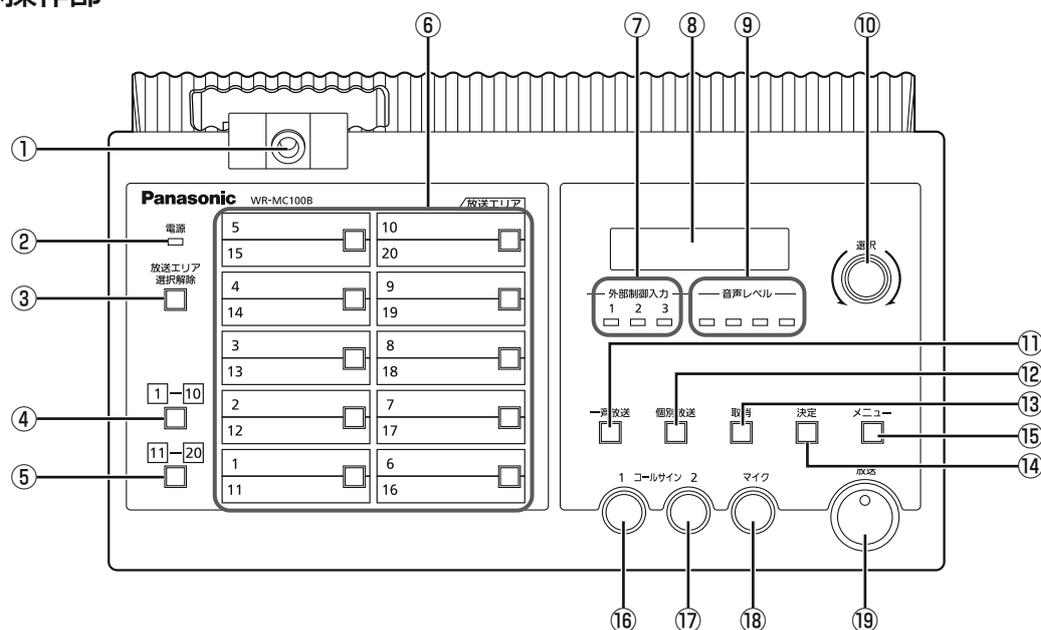
すぐ電源を切り、乾いた柔らかい布でふいてください。その後よく乾かしてからご使用ください。

お手入れについて

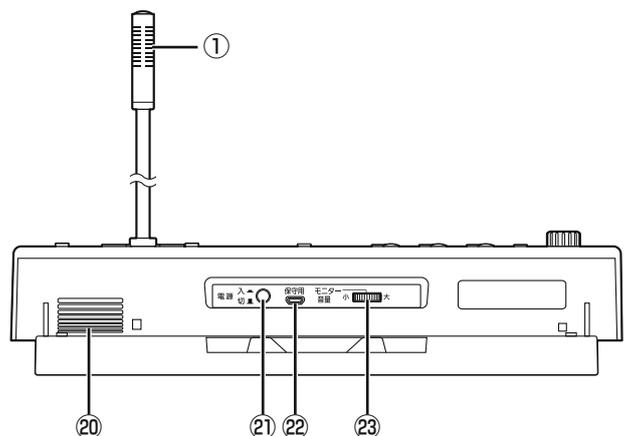
- 電源を切り、乾いた柔らかい布でふいてください。
- ほこりがとれにくいときは、水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔らかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。
- シンナーやベンジンなど、揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

各部の名前とはたらき

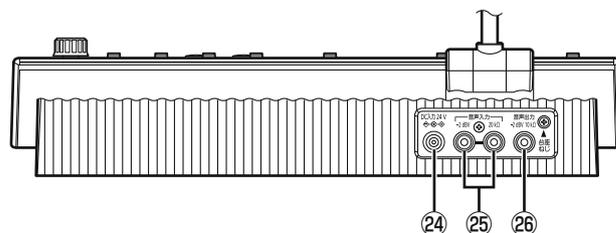
■ 本体操作部



■ 前面



■ 後面



① フレキシブルマイク

マイクの方角を変えることができます。風防（付属品取付済）をつけてご使用ください。

② 電源表示灯【電源】

本機に電源が供給されているときに点灯します。

③ 解除スイッチ【放送エリア選択解除】

⑥放送エリアスイッチで選択されているすべての放送エリアを解除することができます。

④ 放送エリア1～10切換スイッチ／表示灯【1～10】

押すとスイッチが点灯し、⑥放送エリアスイッチが1～10に切り換わります。

⑤ 放送エリア11～20切換スイッチ／表示灯【11～20】

押すとスイッチが点灯し、⑥放送エリアスイッチが11～20に切り換わります。

⑥ 放送エリアスイッチ／表示灯【1～20】

放送先のエリア(1～20)を選択します。選択されたスイッチは緑色または橙色に点灯します。

緑色：放送可能。

橙色：放送不可。本機より優先順位の高い放送が行われています。

※ 放送先(1～20)を主装置側で割り当てていない場合、押しでも選択できません。

主装置から緊急地震放送、非常放送、緊急放送を開始した場合、放送エリア表示灯の色にかかわらず放送はできません。

⑦ 外部制御入力表示灯【外部制御入力1 2 3】

外部制御入力から放送制御されているときに、外部制御入力の番号に対応した表示が点灯します。

⑧ 液晶画面

放送エリア、操作内容、設定内容を表示します。

各部の名前とはたらき

- ⑨ **音声レベルメーター [音声レベル]**
マイク、コールサインおよび [音声入力] 端子の音声レベルを表示します。赤色が点灯せず、橙色が点灯する状態が適正レベルの目安です。
- ⑩ **選択ダイヤル [選択]**
左右に回して設定項目を選択できます。パスワード入力時は、押すと入力文字を確定してカーソルを移動することができます。
- ⑪ **一斉放送スイッチ / 表示灯 [一斉放送]**
一斉放送するときを押します。押すとスイッチが点灯します。
⑩ 放送スイッチの表示灯も点灯します。
- ⑫ **個別放送スイッチ / 表示灯 [個別放送]**
スピーカー回線ごとに放送する場合に押します。押すとスイッチが点灯します。
⑥ 放送エリアスイッチがスピーカー回線入力用のテンキースイッチとなります。このときは押しても⑥ 放送エリアスイッチは点灯しません。
- ⑬ **取り消しスイッチ [取消]**
液晶に表示されている内容を取り消す場合に押します。
- ⑭ **決定スイッチ [決定]**
液晶に表示されている内容を選択、決定する場合に押します。
- ⑮ **メニュースイッチ [メニュー]**
液晶の機能を選択する際に押します。
- ⑯ **コールサイン1スイッチ / 表示灯 [コールサイン1]**
スイッチを押すと、上り4音 A (出荷時設定) のコールサインが流れます。コールサインが流れている間、スイッチは点滅します。
- ⑰ **コールサイン2スイッチ / 表示灯 [コールサイン2]**
スイッチを押すと、下り4音 A (出荷時設定) のコールサインが流れます。コールサインが流れている間、スイッチは点滅します。
- ⑱ **マイクスイッチ / 表示灯 [マイク]**
① フレキシブルマイクから放送するときを押します。押すとスイッチが点灯します。
- ⑲ **放送スイッチ / 表示灯 [放送]**
押すと放送することができます。放送中は表示灯が点灯します。
- ⑳ **内蔵スピーカー**
コールサインおよび [音声入力] 端子の音声を聞くことができます。(マイク音声は出力されません)
- ㉑ **電源スイッチ [電源 入 / 切]**
本機の電源を「入 / 切」します。押すと「入」、戻すと「切」になります。
「入」になると [電源] 表示灯㉑が点灯します。
- ㉒ **保守用接続端子 [保守用]**
保守用の端子です。
この端子から電源を供給することはできません。
- ㉓ **内蔵スピーカー音量調節つまみ [モニター音量 小 / 大]**
㉑ 内蔵スピーカーの音量を調節します。右に回すと音量が大きくなります。音声を出したいくない場合は、左に回しきってご使用ください。
- ㉔ **DC入力24V端子 [DC 入力24 V]**
本機を接続する機器から電源 (DC24 V) の供給が受けられない場合に、別売のACアダプターを接続して電源の供給を受けます。
- ㉕ **音声入力端子 [音声入力 (-2 dBV 20 kΩ)]**
外部音源機器を接続します。2端子ありますが、本機内部でモノラルにミックスされます。[放送] スwitchを押すと放送されます。放送中には、音声入力とマイク音声はミキシングされます。
- ㉖ **音声出力端子 [音声出力 (-2 dBV 10 kΩ)]**
ICレコーダーなどを接続します。放送状態に関係なく、本機の音声を録音することができます。

操作の前に

液晶画面には放送状態が表示されます。表示内容は動作モード（接続される主装置）によって変わります。

A：WK-EK***：壁掛形非常用放送設備（WK-EK110、WK-EK115、WK-EK120、WK-EK110A、WK-EK115A、WK-EK120A、WK-EK310、WK-EK320、WK-EK330）

B：WL-8000/K600：ラック形非常用放送設備（WL-8000シリーズ、WL-8000Aシリーズ）、業務放送システム（WL-K600）

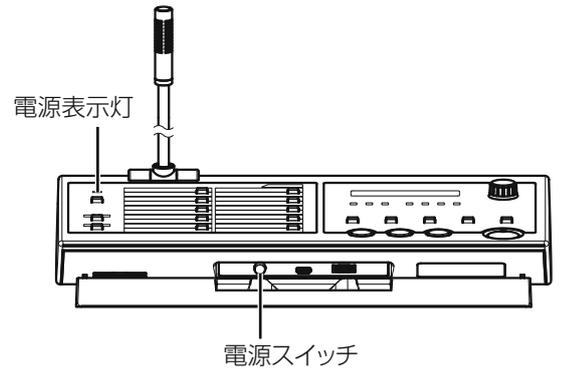
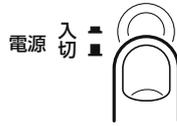
放送状態	液晶画面表示	動作モード		備考
		A	B	
非常放送	ヒジ ョウ ホウソウチュウ	○	○	ACアダプター使用時のみ表示されます。
緊急放送	キンキュウ ホウソウチュウ	○	○	—
業務放送 本機からの エリア放送	01 02 05 06 07 09 10	○	○	現在放送している放送エリアの番号が表示されます。
業務放送 本機からの 個別放送	コヘ ツ ホウソウ --- 012	○	○	現在放送しているスピーカー回線の番号が表示されます。
業務放送 本機からの 一斉放送	イッセイ ホウソウチュウ	○	○	—
業務放送 他機器からの 放送	タキキホウソウ キト ヲウチュウ <ホンタイ>	—	○	画面下段に放送中の機器が表示されます。 (入力マトリクスユニットWU-MX544接続時には表示されません。) <ホンタイ>、<ヒジョウ リモコン**>、 <リモコンマイク>、<マルチ リモコン**>、 <ガイブセイギョキドウ>、<チャイム>、 <ページング>、<BGM> **は、非常リモコンまたはマルチリモコンのユニットアドレス番号を示します。
	ホウソウ キト ヲウチュウ <ホンタイ>	○	—	画面下段に放送中の機器が表示されます。 <ホンタイ>、 <ヒジョウ リモコン**>、 <リモコンマイク>、<マルチ リモコン**>、 <アナウンス>、<ガイブセイギョキドウ>、 <チャイム> **は、非常リモコンまたはマルチリモコンのユニットアドレス番号を示します。
点検モード中	テンケンモード チュウ	○	○	—
操作練習中	ソウサ レンシュウチュウ	—	○	—

操作のしかた

電源を入れる

本機の電源を入れます。

- 1 [電源] スイッチを押す
[電源] 表示灯が点灯します。



放送先の選択

本機からの放送先を選択します。放送エリアは、主装置側で設定します。
ここでは、放送先2、3、6、10、11、13、19を例に説明します。

- 1 放送エリア切換スイッチ ①—⑩を押す

①—⑩が点灯します。

- 2 [放送エリア] スイッチ ②、③、⑥、⑩を押す

選択したスイッチが点灯し、放送エリア2、3、6、10が選択されます。

- 3 放送エリア切換スイッチ ⑪—⑳を押す

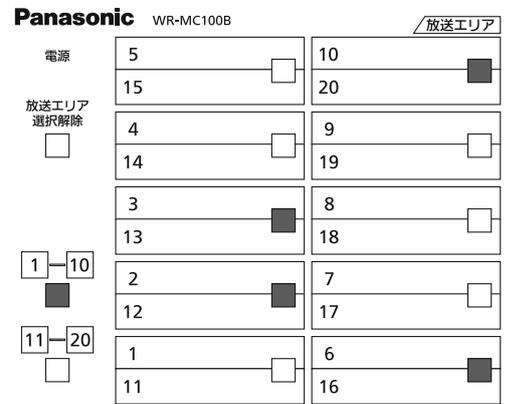
⑪—⑳が点灯します。

このとき液晶には、放送エリア1～10のうち、手順2で選択されたエリアの番号が表示されます。

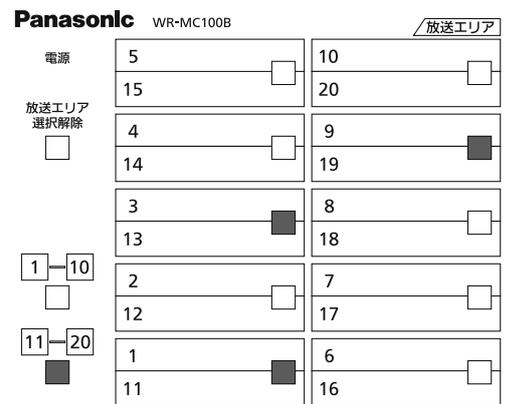
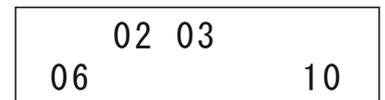
- 4 [放送エリア] スイッチ ⑪、⑬、⑲を押す

選択したスイッチが点灯し、放送エリア11、13、19が選択されます。

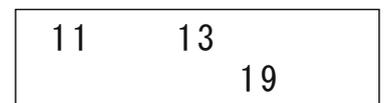
再度、エリア切換スイッチ ①—⑩を押すと、液晶画面は右画面に切り換わります。



エリア選択画面



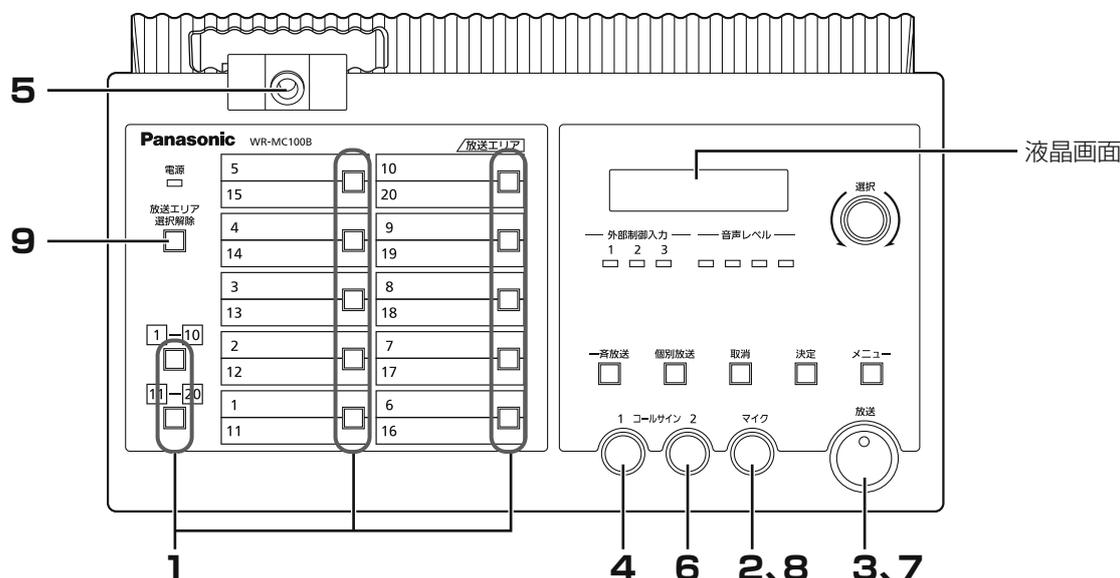
エリア選択画面



- [放送エリア] スイッチが橙色に点灯している放送先は、本機より優先順位の高い放送が行われており、本機からは放送できません。
- 主装置側で放送先のスピーカー回線が割り当てられていないと、[放送エリア] スイッチを押しても選択できません。

放送のしかた

マイクによるアナウンス放送を例に手順を示します。



操作

1 放送先を選択する (10ページ)

2 [マイク] スイッチを押す
[マイク] スイッチが点灯します。



3 [放送] スイッチを押す
[放送] スイッチの表示灯が点灯します。



4 [コールサイン1] スイッチを押す

[コールサイン1] スイッチが点滅し、コールサイン1が放送されます。コールサインは内蔵スピーカー、外部スピーカーでモニターできます。



5 [コールサイン1] スイッチの点滅終了後、マイクに向かって放送する

選択されている放送先にアナウンスが流れます。
音量の調節は、「マイク音量の調節のしかた」(14ページ)をお読みください。

6 [コールサイン2] スイッチを押す

[コールサイン2] スイッチが点滅し、コールサイン2が放送されます。



7 [コールサイン2] スイッチの点滅終了後、再度 [放送] スイッチを押して放送を終了する

[放送] スイッチが消灯します。



操作のしかた

8 再度、[マイク] スイッチを押す

[マイク] スイッチが消灯します。

マイク



9 [解除] スイッチを押す

選択した放送エリアのスイッチが消灯し、選択が解除されます。

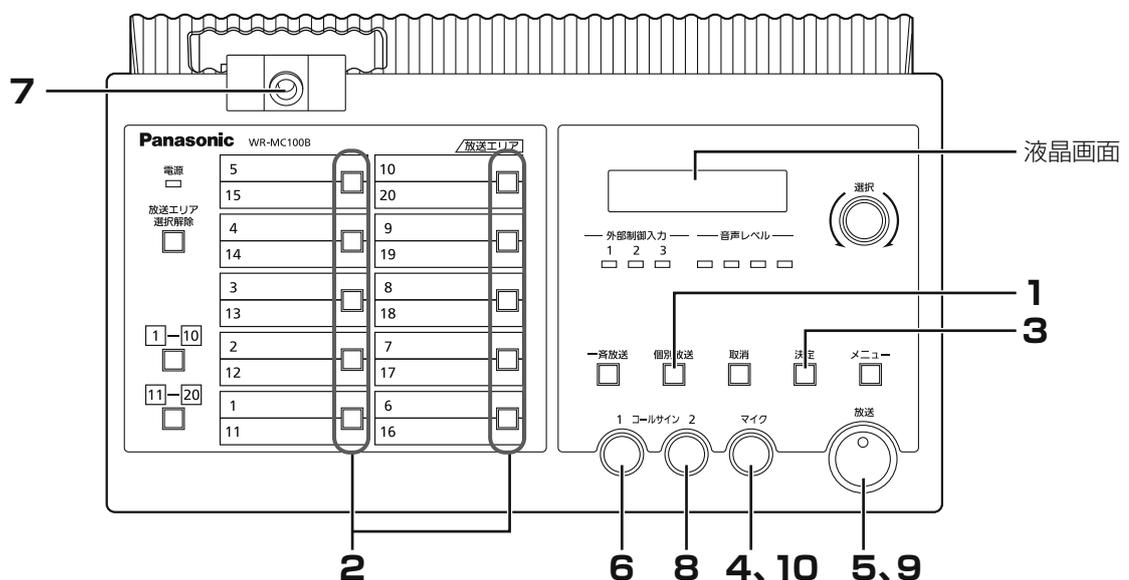


- コールサインについて
[放送] スイッチを押すと自動的にコールサインが流れるように設定することができます。ユニット設定メニューの「コールサイン キドウ」画面で「ジドウ」に設定してください。(41ページ)
- [マイク] スイッチ、[放送] スイッチについて
工場出荷状態では、押すたびにON/OFFが切り換わります（ロック設定）。押している間だけONにする場合は、ユニット設定メニューの「ハウソウ スイッチ」、「マイク スイッチ」画面で「ノンロック」に設定してください。(43、44ページ)

個別放送のしかた

放送先を「スピーカー回線」単位で個別に選択して、マイク放送や外部音声入力の放送ができます。個別の放送先は、接続されるシステムによって、選択できるスピーカー回線が異なります。

接続システム	選択できるスピーカー回線
ラック形非常用放送設備	
WL-8000シリーズ	最大340 ※システム構成によって異なります。
WL-8000Aシリーズ	
壁掛形非常用放送設備	
WK-EK110、WK-EK110A、WK-EK310	最大10
WK-EK115、WK-EK115A	最大15
WK-EK120、WK-EK120A、WK-EK320	最大20
WK-EK330	最大30
業務放送システム	
WL-K600	最大330 ※システム構成によって異なります。



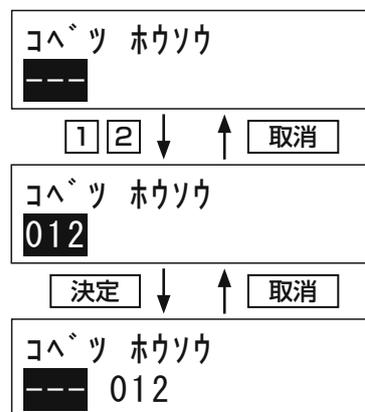
1 [個別放送] スイッチを押す

2 放送先のスピーカー回線番号を [放送エリア] スイッチ ①～⑩で入力する

液晶画面に入力したスピーカー回線番号が表示されます。
入力したスピーカー回線番号を取り消す場合は、[取消] スイッチを押してください。

スピーカー回線番号	液晶表示
10のときは①、⑩と押します。	010
22のときは②、②と押します。	022
100のときは①、⑩、⑩と押します。	100
125のときは①、②、⑤と押します。	125

放送状態表示画面



3 [決定] スイッチを押す

複数の放送先を選択する場合は、ここで再度スピーカー回線番号を指定します。

4 [マイク] スイッチを押す

[マイク] スイッチが点灯します。

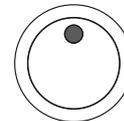
マイク



5 [放送] スイッチを押す

[放送] スイッチの表示灯が点灯します。

放送



6 [コールサイン1] スイッチを押す

[コールサイン1] スイッチが点滅し、コールサイン1が放送されます。コールサインは内蔵スピーカー、外部スピーカーでモニターできます。

1 コールサイン



7 [コールサイン1] スイッチの点滅終了後、マイクに向かって放送する

選択されている放送先にアナウンスが流れます。
音量の調節は、「マイク音量の調節のしかた」(14ページ)をお読みください。

1 コールサイン



8 [コールサイン2] スイッチを押す

[コールサイン2] スイッチが点滅し、コールサイン2が放送されます。

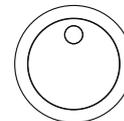
コールサイン 2



9 [コールサイン2] スイッチの点滅終了後、再度、[放送] スイッチを押して放送を終了する

[放送] スイッチの表示灯が消灯します。

放送



10 再度、[マイク] スイッチを押す

[マイク] スイッチが消灯します。

マイク



マイク音量の調節のしかた

マイクの音量を調節できます。放送しながら、調節することができます。
液晶画面の音量バー0～10点灯表示（工場出荷時設定：音量バー4点灯）

1 [メニュー] スイッチを押し、メインメニュー「マイク VOL」を表示する

画面上的「***」は本機ソフトウェアのバージョン番号です。

2 [決定] スイッチを押す

「マイク音量調節」画面が表示されます。

3 [選択] ダイヤルを回し、音量を調節する

右へ回すと音量が大きくなり、左へ回すと音量が小さくなります。■が多いほど音量の設定が大きくなります。音量を最小（音量バー一点灯なし）にしても、音量は絞られていません。



- [マイク] スイッチを押してマイクをONすると、レベルメーターでマイク音量を確認しながら調節することができます。

4 [決定] スイッチを押す

処理終了メッセージが表示（約2秒間）され、メインメニューに戻ります。



- [決定] スイッチを押さないと、設定した内容に変更されません。
- [取消] スイッチを押すと設定した内容を保存せずに前の画面に戻ります。

5 終了するときには、「エリア選択」画面が表示されるまで [取消] スイッチを押す

メインメニュー

メインメニュー *.*.*
>マイク VOL

決定

取消

マイク音量調節画面

マイク VOL



選択



決定

処理終了メッセージ

セッテイ ホゾン シマシタ

(約2秒後に遷移)

メインメニュー

メインメニュー *.*.*
>マイク VOL

取消

エリア選択画面

11 12 13 14 15
16 17 18 19 20

選択した放送エリア

エリア選択画面



放送エリアが選択されていない

設置のしかた

設置上のお願ひ



警告

- 工事は必ず販売店に依頼してください。
- 工事を行う前に、接続する機器の電源スイッチを「切」にし本機に電源を供給する主装置側の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

設置工事は電気設備技術基準に従って実施してください。

本機は屋内専用です

屋外での使用はできません。

長時間直射日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

設置場所について

- 直射日光の当たるところや温風吹き出し口の近くは避けてください。
- 湿気やほこり、振動の多い場所に設置しないでください。
- トランス、調光器、映像機器などから、できるだけ離してください。誘導ノイズを受ける恐れがあります。
- 電波受信機（ラジオやテレビ、ワイヤレスマイクの受信機）の近くで使用すると、電波受信機側で雑音や誤動作の原因となることがあります。本機と電波受信機はできるだけ離してご使用ください。

壁取り付けについて

- 傷害防止のため、この機器は、設置説明にしたがって壁にしっかりと取り付ける必要があります。
- モルタル壁へのねじによる直取り付けはしないでください。強度不足による落下の原因や、発熱による発火の原因となります。

接続線材について

- 接続のしかた（22ページ）に記載されている線材をご使用ください。
- 本機の底部にはケーブルクランプが取り付けられています。付属の束線バンドで線材を束ねるときにご使用ください。

静電気について

静電気による破損を防止するために、作業を始める前に金属部に触れて、人体に帯電している静電気を放電してください。

放送先表示について

- 設定した放送エリアは［放送エリア］スイッチ左横欄に名称を表示してください。ラベルで表示するときは、高さ9 mm以下のものを使用してください。

表示について

- 本機の識別および電源、その他の表示は機器後面および上面をご覧ください。

電源スイッチについて

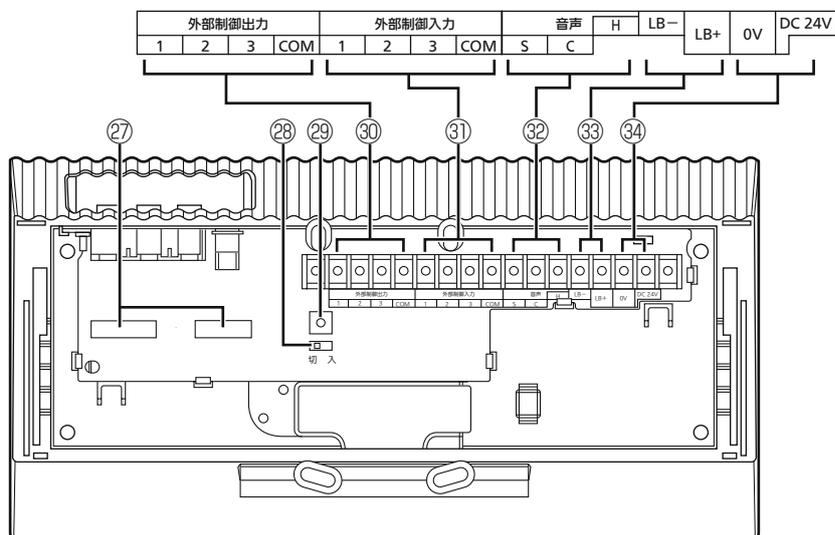
- 本機は、電源スイッチを「切」にしても、本機内部にDC24Vは通電されています。DC24Vを遮断するためには、主装置側の電源を切るか、ACアダプターを使用しているときはACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。

SIGNAL GND について

- 必ず大地アースに落としてください。

各部の名前とはたらき

■ 台座（本体部を外した状態）



②⑦ 本体操作部接続端子

本体操作部背面からの接続コネクタを接続します。

②⑧ RS-485終端スイッチ [通信終端 切入]

終端抵抗を設定します。

②⑨ SIGNAL GND端子

必ず大地アースに落としてください。

③⑩ 外部制御出力接続端子

[外部制御出力1、2、3、COM]

この端子から外部機器をメイクすることができ、1～3の3系統を制御できます。制御するには、本機のユニット設定メニューで制御出力1～3を設定します。

③① 外部制御入力接続端子

[外部制御入力 1、2、3、COM]

この端子で、外部機器からのメイク信号により、本機を制御できます。制御するには、本機のユニット設定メニューで制御入力1～3を設定します。

③② 主装置音声出力端子 [音声 H、C、S]

主装置の音声線を接続します。

③③ 通信接続端子 [LB +、LB -]

RS-485のデータ線を接続します。

③④ 電源接続端子 [DC 24 V、0 V]

DC 24 Vを接続します。

本機は、据置型（下記）、壁掛型（19ページ）として設置できます。

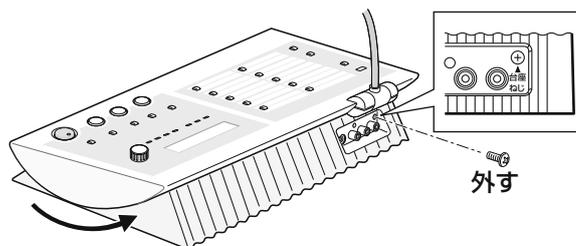
据置型として使用する場合

本機を卓上に置いて使用する場合は、以下の手順で設置してください。

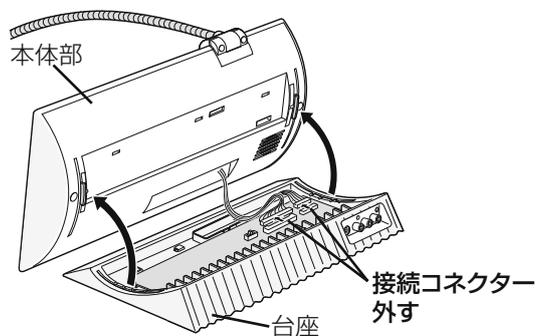
1 本機背面の▲マークで示されたねじを外す

使用ねじ：なべ頭 M3×8

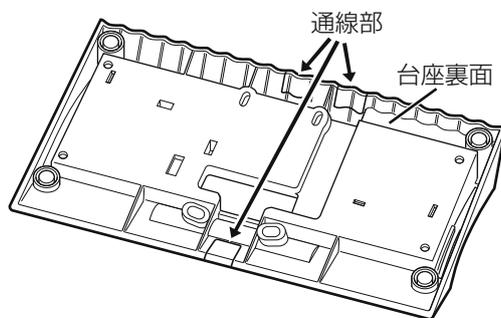
2 本体部を矢印の方向いっぱいにはずす



3 本体部を台座から外し、接続コネクタを外す



4 台座の通線部（3か所のいずれか）を、ニッパーなどで切り取る



5 線材を端子台に結線する

線材仕様、接続の詳細は22～32ページをお読みください。

線材の先端に丸端子を取り付けてください。

丸端子はJIS C 2805 RAV1.25-3に適合するものをご使用ください。

結線の手順は以下のとおりです。

① アース線を [SIGNAL GND] 端子に左出しの方向で結線します。

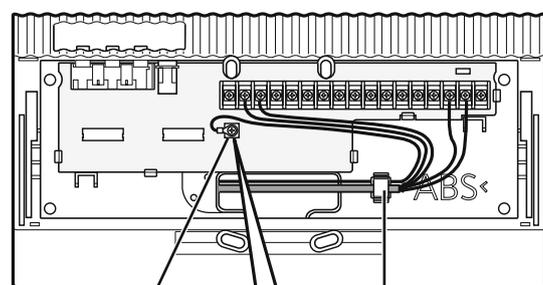
② アース線を [SIGNAL GND] 端子と端子台の間を通します。

③ 端子台に線材を結線します。

結線した線材が浮き上がらないように、付属の束線バンドで固定します。

束線したバンドも含めて、線材は基板面より低くしてください。

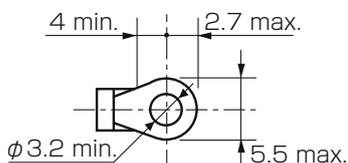
台座内部には、線材の余長分を残さないでください。



SIGNAL GND端子

束線バンドで固定

左から出して、端子台の間を通す



丸端子形状

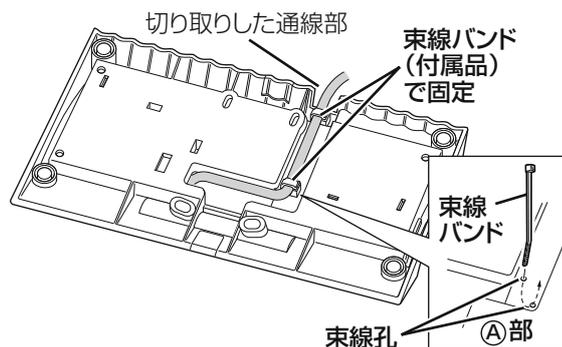
推奨締付トルク：0.67 N・m {7kgf・cm}

[SIGNAL GND] 端子への結線は、線材が終端スイッチに当たらないように引き回してください。

設置のしかた

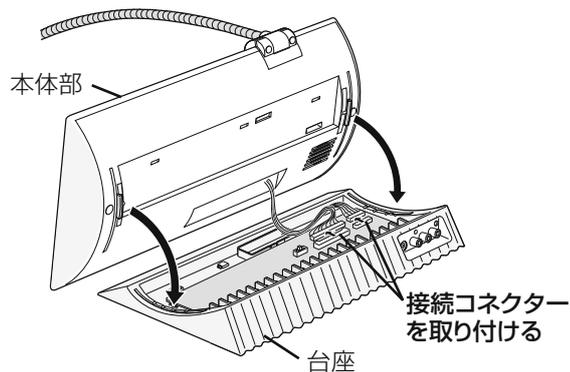
6 内面から出した線材を溝に沿って這わせ、付属の束線バンドで固定する

Ⓐの箇所は、溝面に開けた孔に束線バンドを通して固定します。



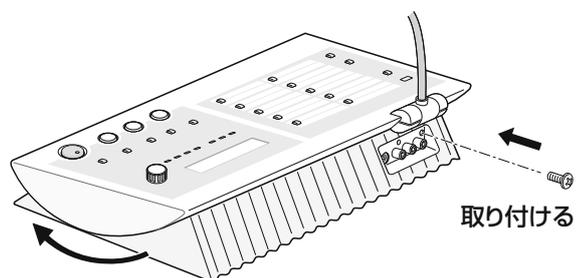
7 台座に線材を接続し、本体部を取り付ける

- ① 本体部の接続コネクタ2本を台座に接続する。
確実にコネクタが挿し込まれたことを確認する。
- ② 通信終端の設定を行う。(22ページ)
- ③ 本体部の突起部を台座の溝にはめ込む。

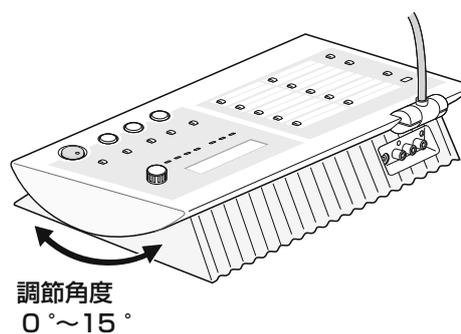


8 本体部を手順1と反対方向にスライドさせて、本機背面に手順1で外したねじを取り付ける

推奨締付トルク : 0.78 N・m {8 kgf・cm}



9 使いやすい角度に調節する



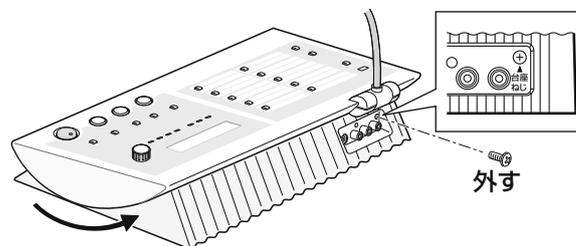
壁面に取り付けて使用する場合

本機を壁に取り付けて使用する場合は、以下の手順で設置してください。

1 本機背面の▲マークで示されたねじを外す

使用ねじ：なべ頭 M3×8

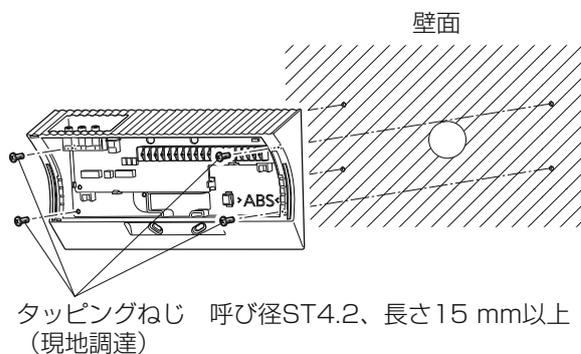
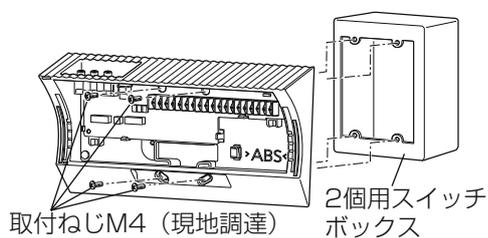
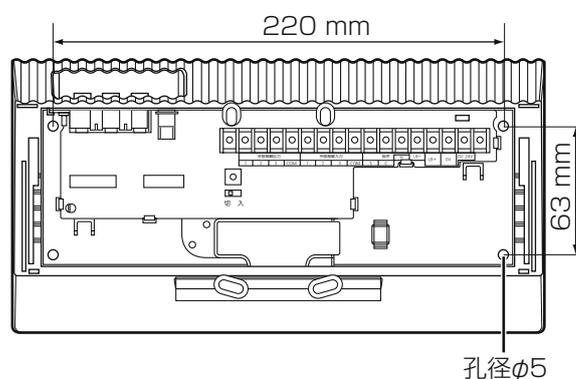
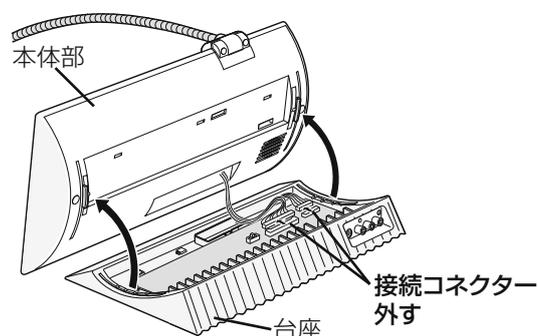
2 本体部を矢印の方向いっぱいにはずす



3 本体部を台座から外し、接続コネクタを外す

4 台座を壁面に取り付ける

- 台座を壁面に直接取り付けるときは、台座のゴム足を外してください。
- 取り付けねじ4本を使用して、台座を確実に固定してください。(台座が動かないことを確認してください)
- 電動ドライバーやインパクトドライバーは使用しないでください。締めすぎにより、壁やねじが破損する原因となります。
- 取り付けは、化粧合板やボード製の間仕切り程度に使用されている壁などは避け、垂直強度および水平強度が98 N (10 kgf) 以上の強度を持つ壁面に取り付けてください。
- 線材を台座内面に引き出してから取り付けてください。
- 線材を壁面に沿って配線するときは、台座の通線部を切り取って開けてください。(17ページ)
- スイッチボックスに取り付ける場合は、JIS適合の2個用ボックスを使用してください。



- 重要**
- モルタル壁へのねじによる直取り付けは、しないでください。強度不足による落下の原因や、発熱による発火の原因となります。

設置のしかた

5 線材を台座内面に引き出し、端子台に結線する

線材仕様、接続の詳細は22～32ページをお読みください。

線材の先端に丸端子を取り付けてください。

丸端子はJIS C 2805 RAV1.25-3に適合するものをご使用ください。

結線の手順は以下のとおりです。

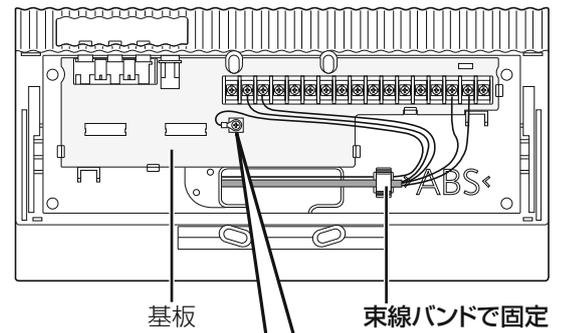
- ① アース線をSIGNAL GND端子に左出しの方向で結線します。
- ② アース線をSIGNAL GND端子と端子台の間を通します。
- ③ 端子台に線材を結線します。

結線した線材が浮き上がらないように、付属の束線バンドで固定します。

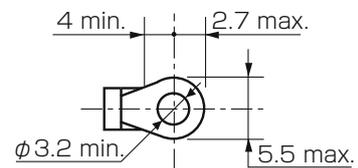
束線したバンドも含めて、線材は基板面より低くしてください。

台座内部には、線材の余長分を残さずに、スイッチボックス内や壁面内側に収納してください。

推奨締付トルク : 0.67 N・m {7kgf・cm}



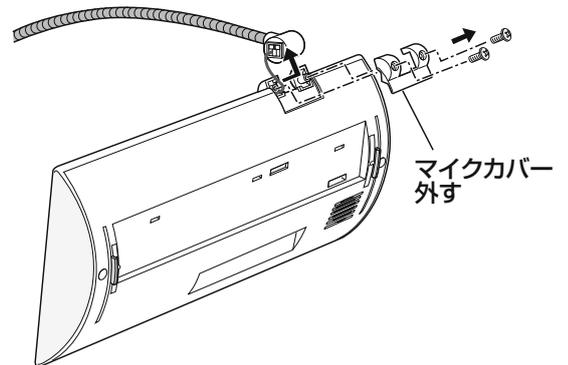
左から出して、端子台の間を通す



丸端子形状

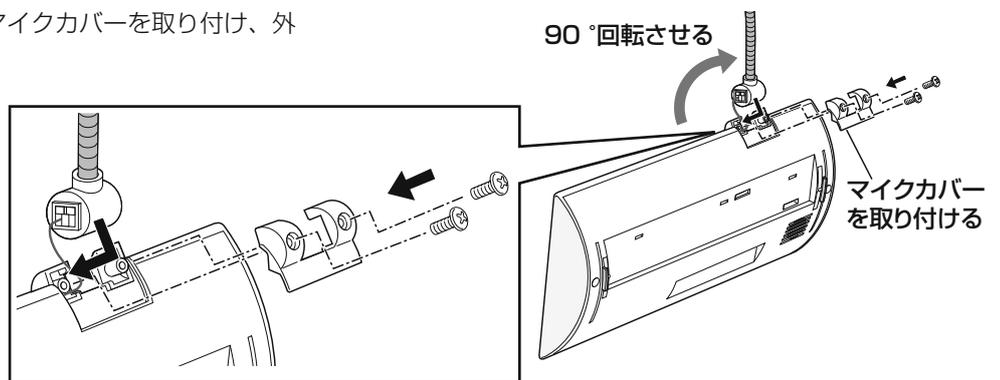
6 フレキシブルマイクの向きを変える

- ① 本体部底面のねじ2本を外して、マイクカバーを外す。



- ② マイクを90°回転させてマイクカバーを取り付け、外したねじ2本で固定する。

線材の向きに注意



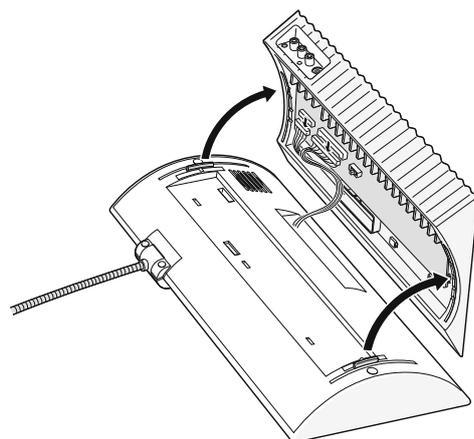
推奨締付トルク : 0.59 N・m {6kgf・cm}



- ねじはきつく締めすぎないでください。ねじ山が破損する原因となります。
- マイク、マイクカバーを取り付ける際は、内部の線材をはさんだり、強く引っ張ったりしないでください。線材が破損する原因となります。

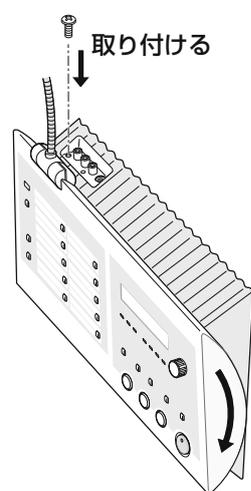
7 台座の基板に本体部からの線材をコネクタ接続し、本体部を取り付ける

- ① 通信終端の設定を行う。(22ページ)
- ② 本体部の突起部を台座の溝にはめ込む。

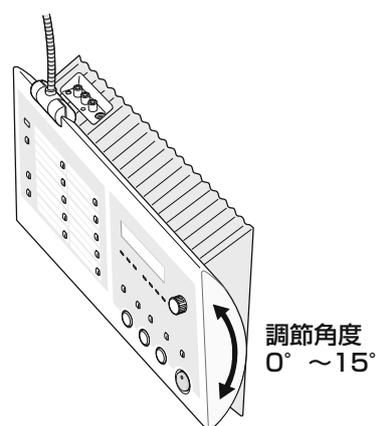


8 本体部を手順1と反対方向にスライドさせ、本機背面に手順1で外したねじを取り付ける

推奨締付トルク : 0.78 N · m {8 kgf · cm}



9 スイッチ操作がしやすい角度に本体部の傾きを調節する



接続のしかた

線材について

■ データ線の距離と線径

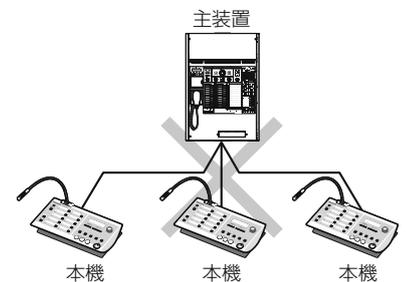
データ線はCPEVなどのツイストペア線を使用してください。
 (平行線では外部ノイズの影響によって、信号(データ)が乱れることがあります。)
 データ線(LB+, LB-)の総延長距離は、1000mまでです。

線径(mm)	主装置側 — マルチリモコンマイク間の距離								
	200 m	300 m	400 m	500 m	600 m	700 m	800 m	900 m	1000 m
φ0.65	○	×	×	×	×	×	×	×	×
φ0.9	○	○	○	○	○	×	×	×	×
φ1.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○

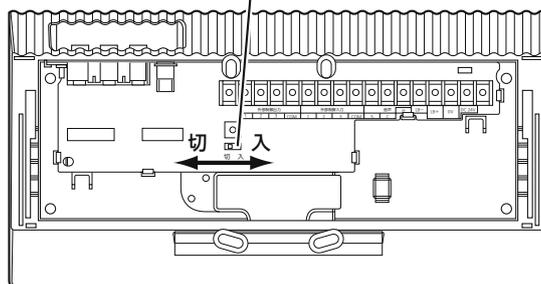
■ データ線の接続方法

データ線を、複数のユニット(主装置および本機)に接続する場合、3分岐などの分岐接続はできません。

データ線の末端に位置するユニットには終端が必要です。本機を終端する場合は、台座内のRS-485終端スイッチを「入」にしてください。



RS-485終端スイッチ



■ 音声線(2芯シールド線)の距離と線径

音声線には、2芯シールド線を使用してください。

線径(mm)	主装置側 — マルチリモコンマイク間の距離								
	200 m	300 m	400 m	500 m	600 m	700 m	800 m	900 m	1000 m
0.5以上	○	○	○	○	×	×	×	×	×
0.75以上	○	○	○	○	○	○	○	○	○

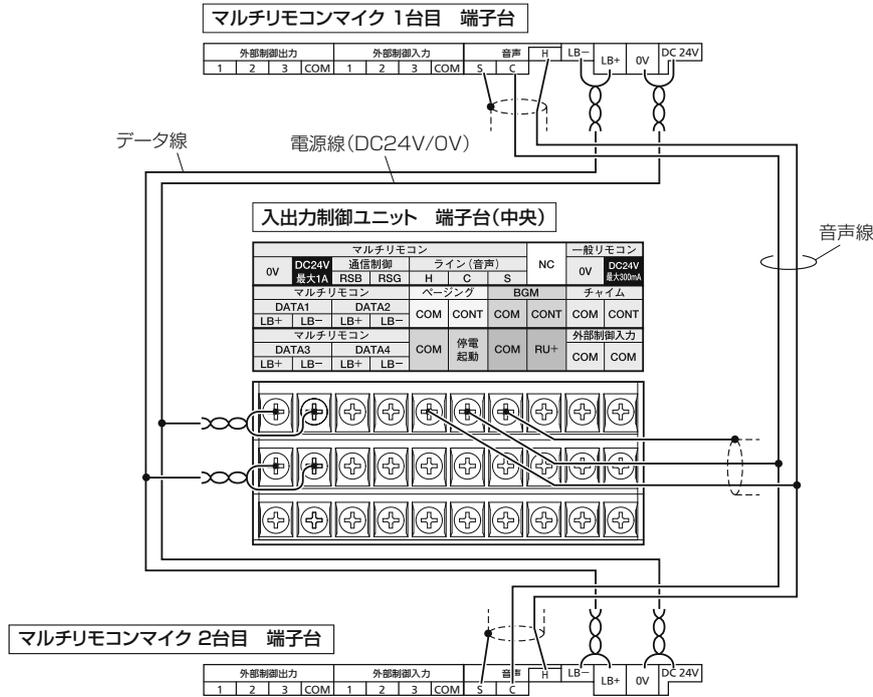
■ 電源線の距離と線径、ケーブル本数

電源線(DC24Vと0Vで1ペア)は、線路抵抗に起因する電圧降下による動作不具合を防止するため、主装置との距離が長い場合は複数のペア線を束ねて線路抵抗を下げる必要があります。以下の表は、CPEVを使用した場合の必要なペア数です。これが不可能な場合は、別売のACアダプター(WR-MC100B)で本機に電源を供給してください。電源線は、主装置と1対1で接続し、渡り配線はしないでください。

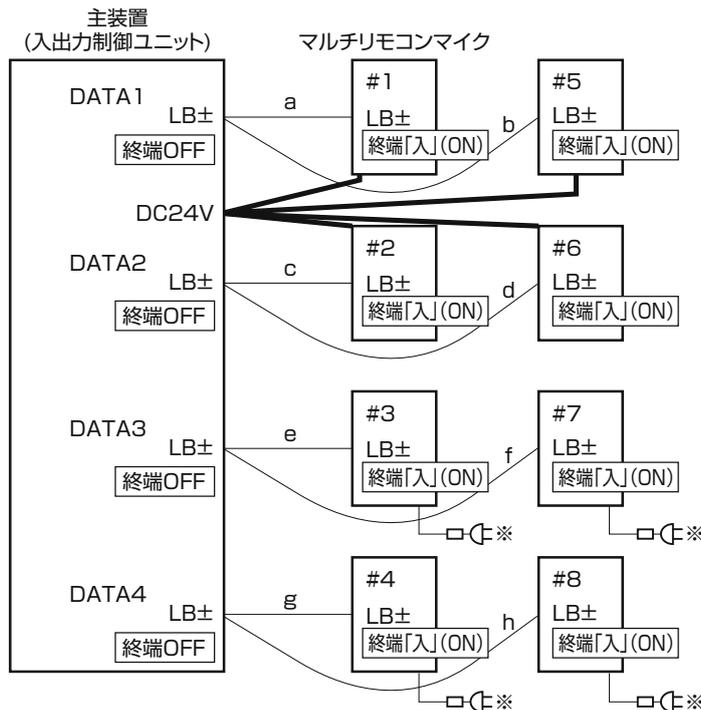
線径(mm)	主装置側 — マルチリモコンマイク間の距離								
	200 m	300 m	400 m	500 m	600 m	700 m	800 m	900 m	1000 m
φ0.9	1	2	2	3	3	×	×	×	×
φ1.2	1	1	2	2	2	2	3	3	3

ラック形非常用放送設備との接続

接続後の設定については、ラック形非常用放送設備（WL-8000シリーズ、WL-8000Aシリーズ）の工事説明書をお読みください。下図に、マルチリモコンマイクを2台接続した場合の接続例を示します。入出力制御ユニット（WU-ER550）の端子に以下のように接続します。



- データ線の総延長距離は1000 mまでです。
- DATA1 (LB+, LB-) ~ DATA4端子に1端子当たり2台までのマルチリモコンマイクを接続します。上の図では、例としてDATA1端子に2台のマルチリモコンマイクを接続しています。DATA信号には、極性があります。+、-を合わせるように接続してください。



データ線の総延長距離: a+b ≤ 1000 m, c+d ≤ 1000 m, e+f ≤ 1000 m, g+h ≤ 1000 m

— データ線 — 電源線

※ “#”はマルチリモコンマイクのユニットアドレス番号を示しています。

接続のしかた

- 入出力制御ユニットのライン（音声）端子は、すべてのマルチリモコンマイクの音声出力を並列に接続します。
- 入出力制御ユニットのDC24 V端子には、4台までのマルチリモコンマイクのDC24 Vを並列に接続します。DC24 V端子の接続の際には極性を間違えないように接続してください。ACアダプターから電源の供給を受けるマルチリモコンマイクは、電源線の結線をしないでください。



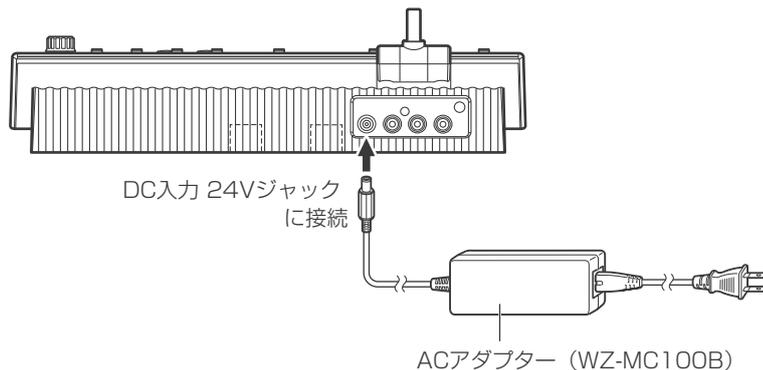
- 電源線を圧着端子でまとめるときは、電圧降下を抑えるため、非常用放送設備の近くでまとめてください。
- 接続した線材は、本機の近くで束ねたり、たるませたりしないでください。誘導ノイズを受ける恐れがあります。

■ DC 24V電源の接続

ラック型非常用放送設備から本機に電源（DC 24V）を供給できる台数は、最大4台です。それ以上の台数を接続する場合は、5台目以降のマルチリモコンマイクについては、別売りACアダプター（WZ-MC100B）を本機後面の [DC入力 24V] に接続してください。



- ACアダプターから電源の供給を受けるマルチリモコンマイクは、ラック型非常用放送設備と電源線の結線をしないでください。



■ マルチリモコンマイクの設定

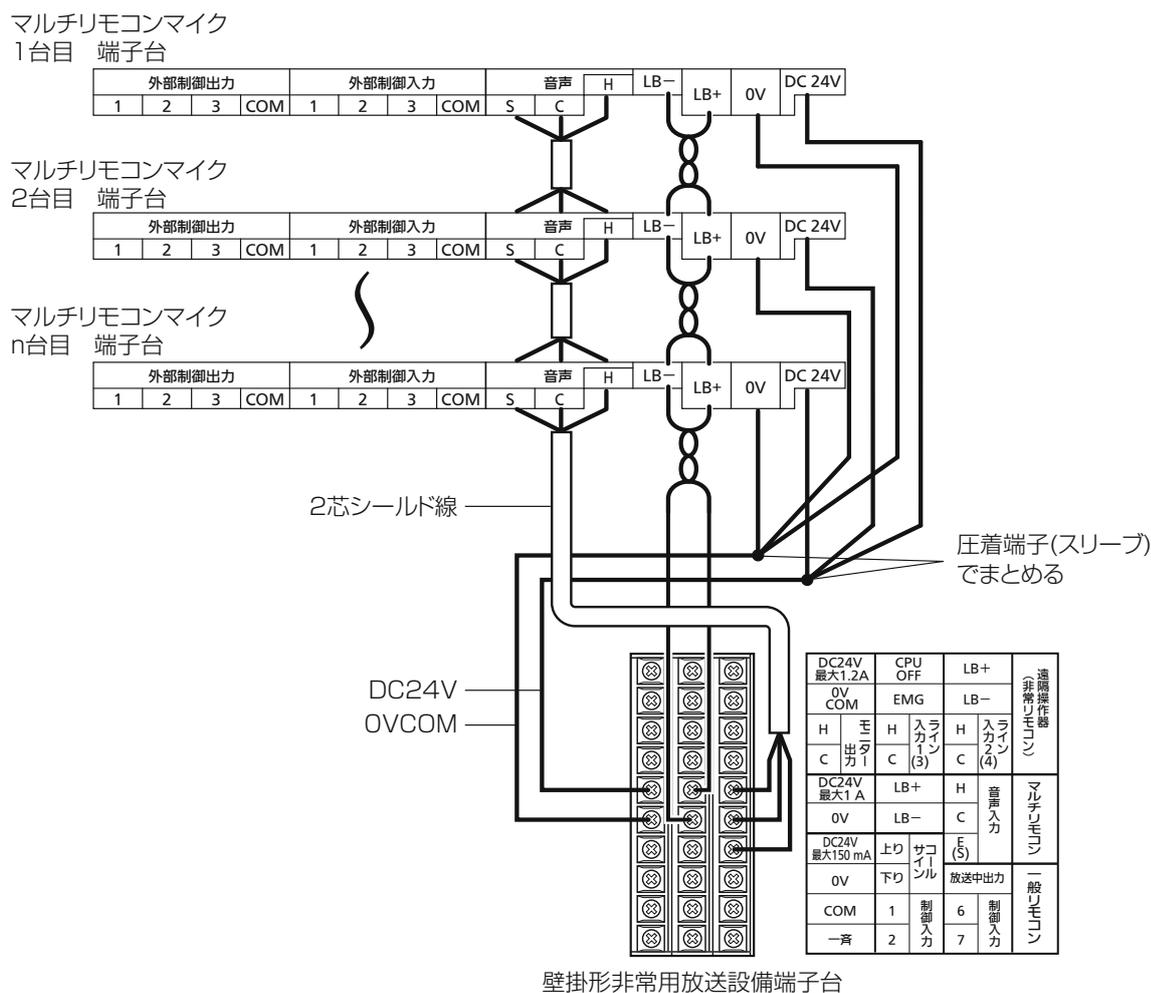
ユニット設定メニューにて動作モードを「B：WL-8000/K600」に設定します。（38ページ）

壁掛形非常用放送設備との接続

■ WK-EK110、WK-EK115、WK-EK120、WK-EK110A、WK-EK115A、WK-EK120Aの場合

接続後の設定については、壁掛形非常用放送設備（WK-EK110、WK-EK115、WK-EK120、WK-EK110A、WK-EK115A、WK-EK120A）の工事説明書をお読みください。

下図に、マルチリモコンマイクを複数台接続した場合の接続例を示します。

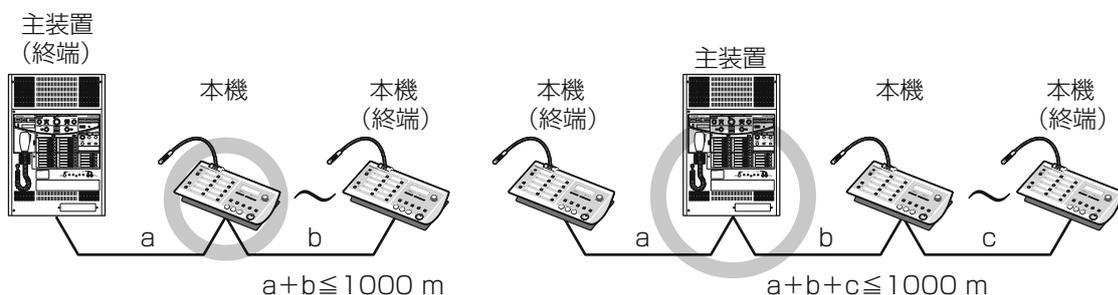


設置



- 電源線を圧着端子でまとめるときは、電圧降下を抑えるため、非常用放送設備側の近くでまとめてください。
- ACアダプターから電源の供給を受けるマルチリモコンマイクは、電源線の結線をしないでください。
- 接続した線材は、本機の近くで束ねたり、たるませたりしないでください。誘導ノイズを受ける恐れがあります。

主装置に本機を複数台接続する場合は、データ線は下図のように接続してください。



接続のしかた

■ WK-EK310、WK-EK320、WK-EK330の場合

接続後の設定については、壁掛形非常用放送設備（WK-EK300シリーズ：WK-EK310、WK-EK320、WK-EK330）の施工説明書をお読みください。



- WK-EK310、WK-EK320、WK-EK330にマルチリモコンマイクを使用する場合はマルチリモコンマイクのアドレス設定が必要です。詳細はマルチリモコンマイクの取扱説明書をお読みください。
- マルチリモコンマイクの接続は必ずマルチリモコンマイクのアドレスに応じたWK-EK310、WK-EK320、WK-EK330のデータLB端子に接続してください。

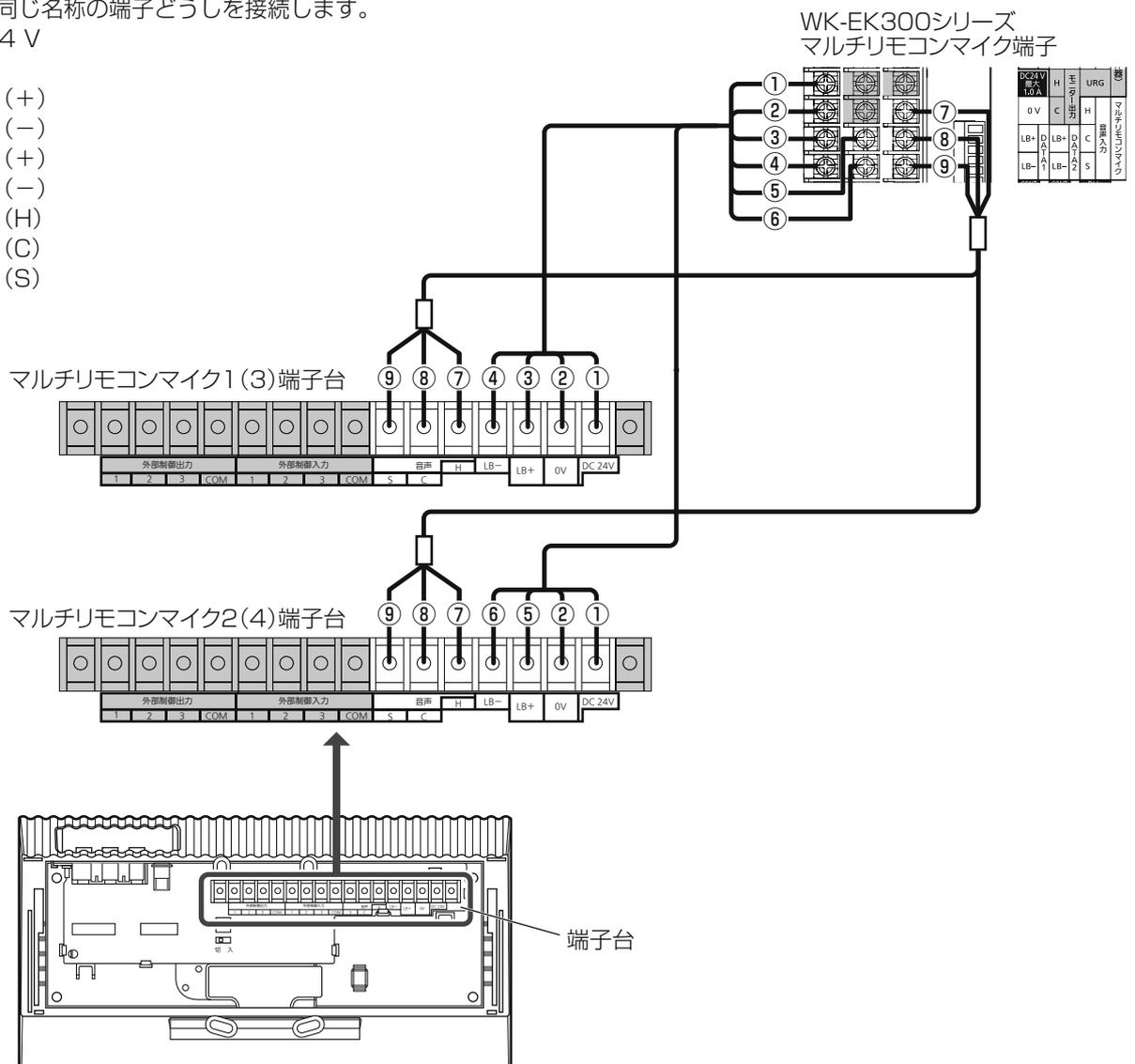
WK-EK310、WK-EK320、 WK-EK330データ線接続端子	マルチリモコンマイク接続台数			
	1台	2台	3台	4台
DATA1 LB±	アドレス1	アドレス1	アドレス1 アドレス3	アドレス1 アドレス3
DATA2 LB±		アドレス2	アドレス2	アドレス2 アドレス4

- マルチリモコンマイクの終端スイッチを「入」にしてください。

下図に、マルチリモコンマイクを2台接続した場合の接続例を示します。

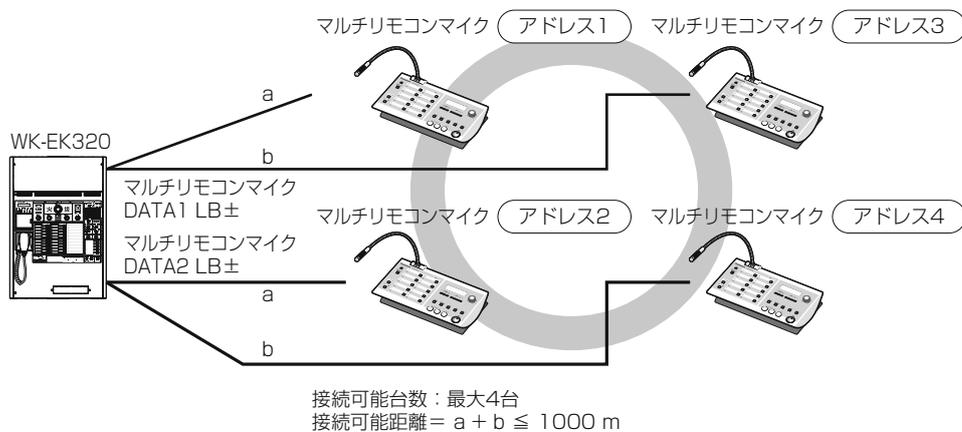
- DATA1端子LB+、LB-にはマルチリモコンマイク1、3のLB+、LB-を接続します。
- DATA2端子LB+、LB-にはマルチリモコンマイク2、4のLB+、LB-を接続します。
- それ以外は同じ名称の端子どうしを接続します。

- ① DC24 V
- ② 0 V
- ③ 通信 (+)
- ④ 通信 (-)
- ⑤ 通信 (+)
- ⑥ 通信 (-)
- ⑦ 音声 (H)
- ⑧ 音声 (C)
- ⑨ 音声 (S)

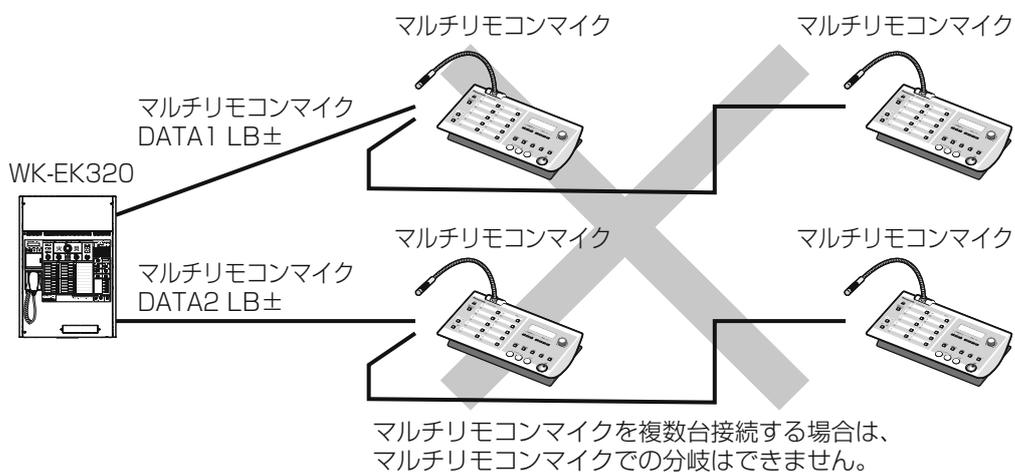


主装置に本機を複数台接続する場合は、データ線は下図のように接続してください。

良い接続例



悪い接続例



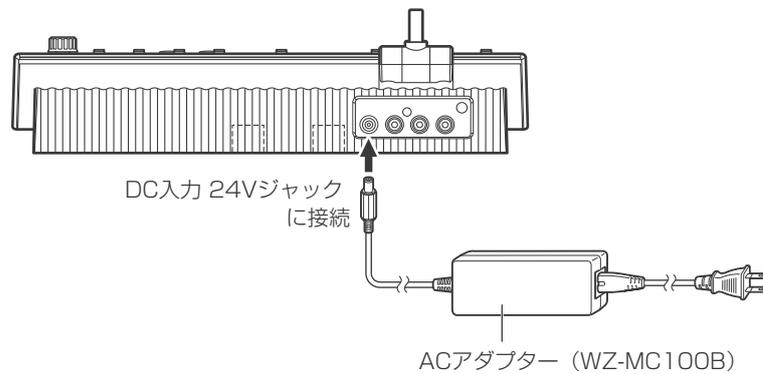
接続のしかた

■ DC 24V電源の接続

壁掛形非常用放送設備から本機に電源を供給できる台数は、非常リモコンの接続台数で変わります。

	接続された非常リモコン台数	電源の供給を受けられる本機の台数
接続可能台数	0	4
	1	3
	2	2
	3	1
	4	0

上表の「電源の供給を受けられる本機の台数」を超える台数については、別売のACアダプター（WR-MC100B）から電源を供給してください。



- ACアダプターから電源の供給を受けるマルチリモコンマイクは、壁掛形非常用放送設備と電源線の結線をしないでください。

■ マルチリモコンマイクの設定

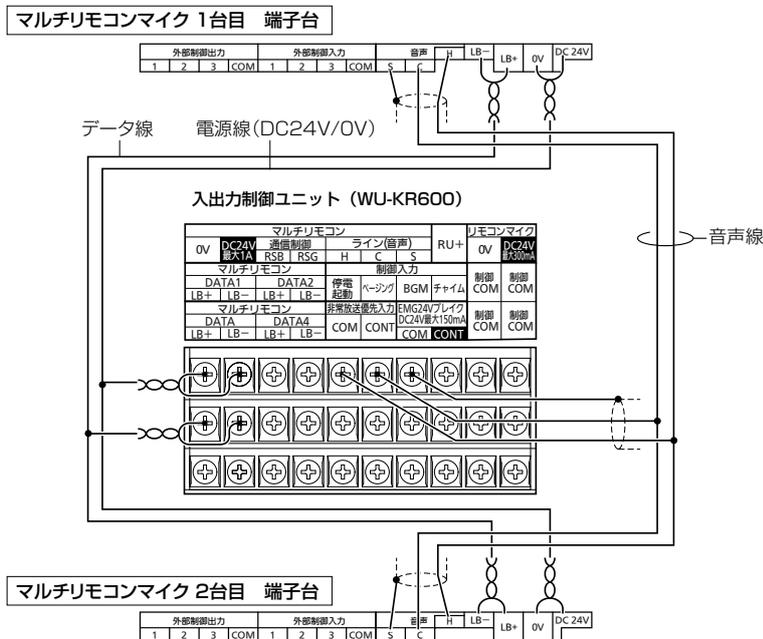
ユニット設定メニューにて動作モードを「A : WK-EK * * *」に設定します。(38ページ)

業務放送システムとの接続

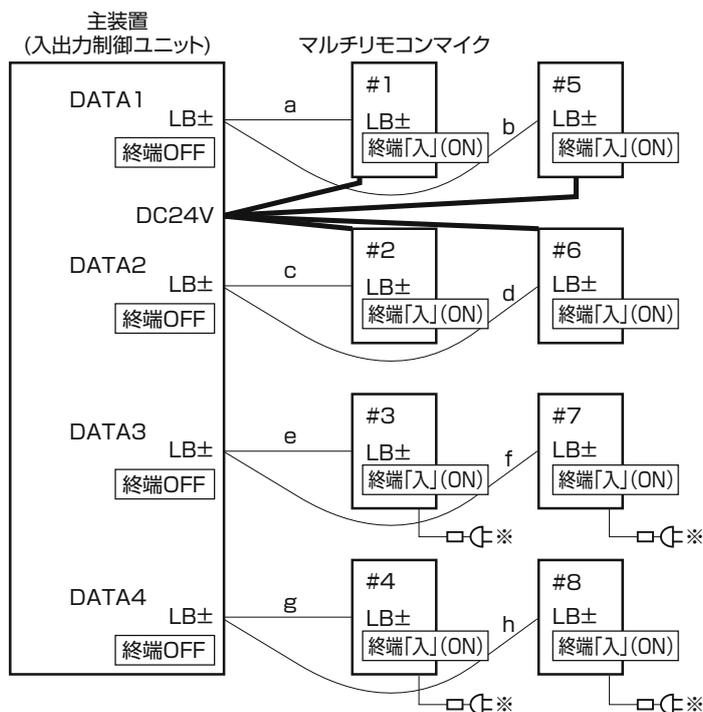
接続後の設定については、業務放送システム（WL-K600）の工事説明書をお読みください。

下図にマルチリモコンマイクを2台接続した場合の接続例を示します。

入出力制御ユニット（WU-KR600）の端子に以下のように接続します。



- データ線の総延長距離は1000 mまでです。
- DATA1 (LB+, LB-) ~ DATA4端子に1端子当たり2台までのマルチリモコンマイクを接続します。上の図では、例としてDATA1端子に2台のマルチリモコンマイクを接続しています。DATA信号には、極性があります。+、-を合わせるように接続してください。



データ線の総延長距離: a+b ≤ 1000 m, c+d ≤ 1000 m, e+f ≤ 1000 m, g+h ≤ 1000 m

— データ線 — 電源線

※ “#”はマルチリモコンマイクのユニットアドレス番号を示しています。

接続のしかた

- 入出力制御ユニットのライン（音声）端子は、すべてのマルチリモコンマイクの音声出力を並列に接続します。
- 入出力制御ユニットのDC24 V端子には、4台までのマルチリモコンマイクのDC24 Vを並列に接続します。DC24 V端子の接続の際には極性を間違えないように接続してください。ACアダプターから電源の供給を受けるマルチリモコンマイクは、電源線の結線をしないでください。



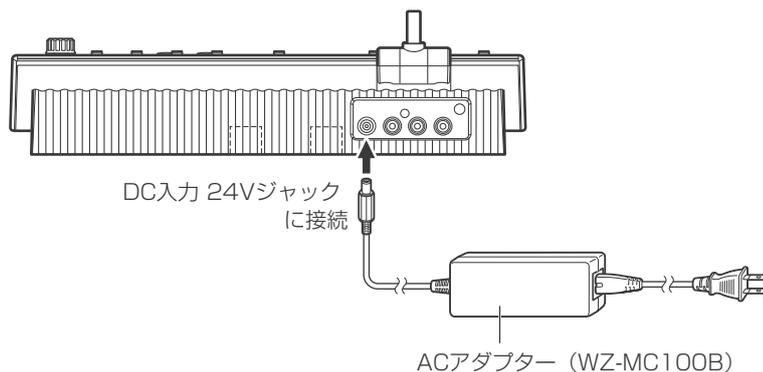
- 電源線を圧着端子でまとめるときは、電圧降下を抑えるため、業務放送システムの近くでまとめてください。
- 接続した線材は、本機の近くで束ねたり、たるませたりしないでください。誘導ノイズを受ける恐れがあります。

■ DC 24V電源の接続

業務放送システムから本機に電源（DC 24V）を供給できる台数は、最大4台です。それ以上の台数を接続する場合は、5台目以降のマルチリモコンマイクについては、別売りACアダプター（WZ-MC100B）を本機後面の [DC入力 24V] に接続してください。



- ACアダプターから電源の供給を受けるマルチリモコンマイクは、業務放送システムと電源線の結線をしないでください。



■ マルチリモコンマイクの設定

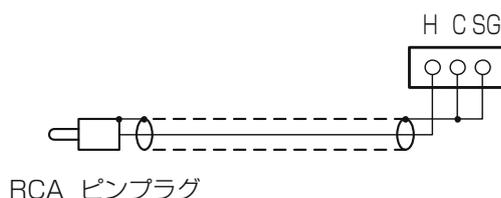
ユニット設定メニューにて動作モードを「B：WL-8000/K600」に設定します。（38ページ）

外部音源との接続

外部音源機器（デジタルICレコーダーなど）と本機を接続すると、外部音源機器の音声を本機から放送できます。外部制御入力の動作モードは「放送起動モード」と「外部コールサインモード」の2種類があります。詳しくは「外部制御入力モードの設定」（46ページ）をお読みください。

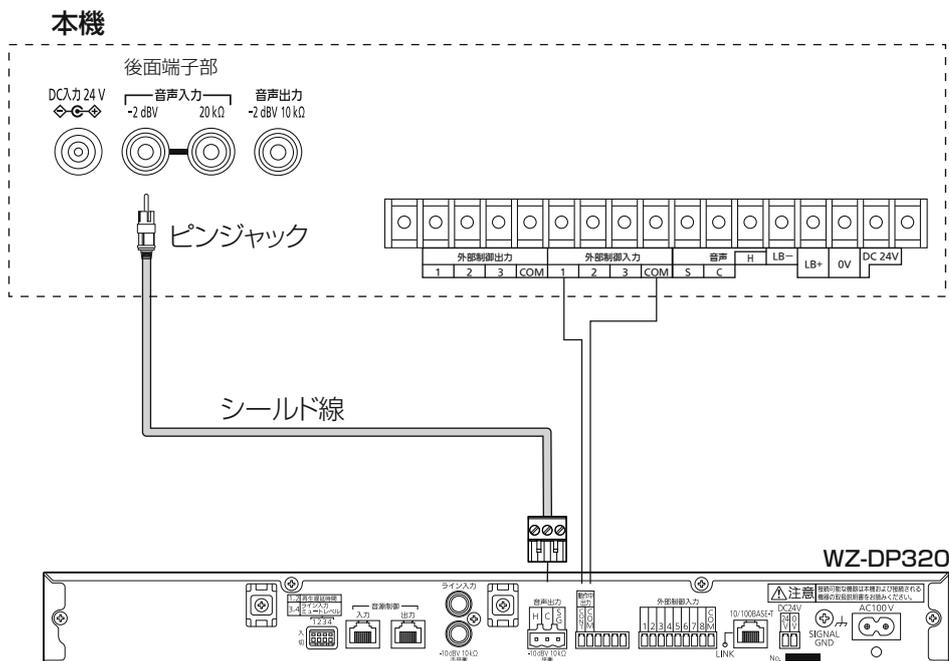


- 音声線は、シールド線で接続します。芯線が、0.8 mm² (AWG18) ~ 0.2 mm² (AWG24) のケーブルを使用してください。（はんだ上げ線は使用しないでください）
- シールド線の芯線をH（ホット）、シールド線をC（コールド）とSG（シグナルグラウンド）に接続します。



■ 放送起動モードでのデジタルICレコーダー（WZ-DP320：別売品）接続例

デジタルICレコーダーで音源を再生しているときに出力される動作中出力をもとに放送を行います。

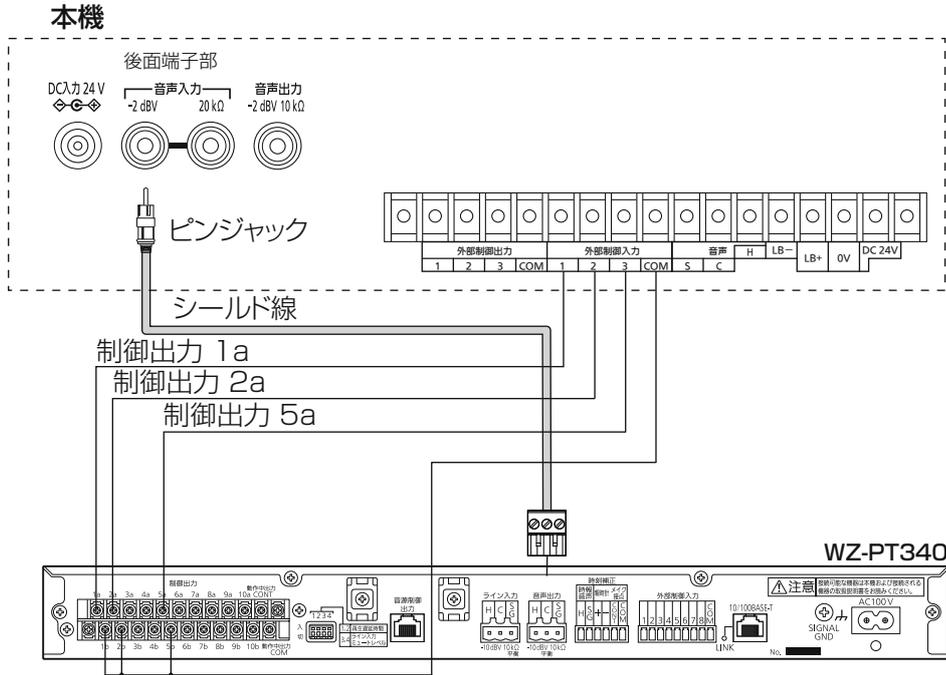


本機の設定は46ページをお読みください。

接続のしかた

■ 放送起動モードでのプログラムICレコーダー（WZ-PT340：別売品）を接続する場合の接続例

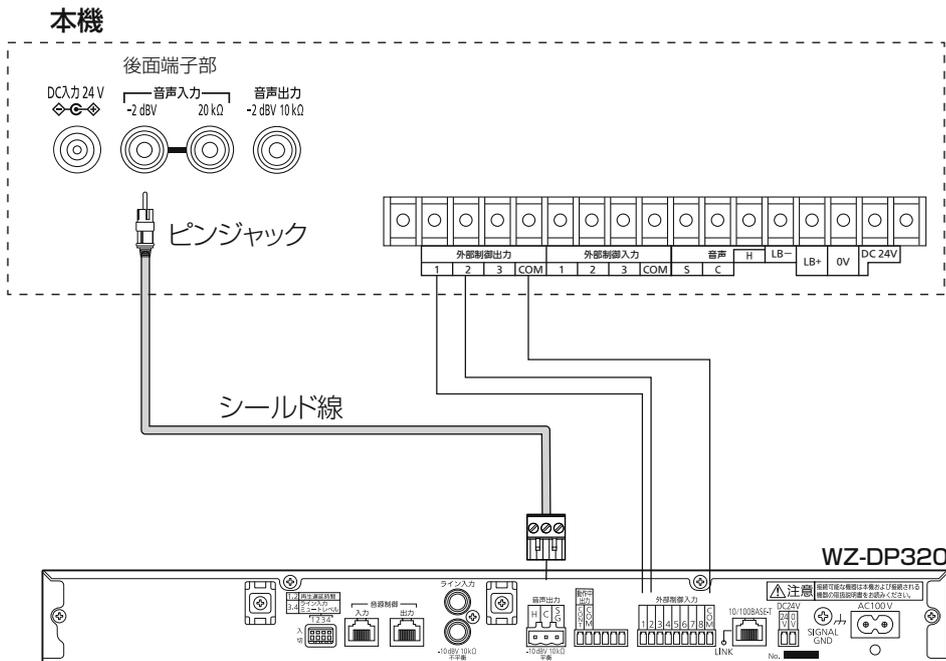
あらかじめプログラムICレコーダーのプログラムタイマー機能で音源再生と制御出力の設定を行います。設定された時刻に出力される制御出力信号をもとに放送を行います。



制御出力 1b、2b、5bはすべて
本機の[外部制御入力 COM]端子に接続します。

■ 外部コールサインモードでのデジタルICレコーダー（WZ-DP320）を接続する場合の接続例

外部音源機器に内蔵されたコールサイン音を本機のコールサインとして使うことができます。



ユニット設定メニューについて

ユニットアドレスの設定

マルチリモコンマイクには1台ごとにアドレスの設定が必要です。

壁掛形非常用放送設備 (WK-EK110、WK-EK115、WK-EK120、WK-EK110A、WK-EK115A、WK-EK120A、WK-EK310、WK-EK320、WK-EK330) の場合、最大4台まで設定できます。

ラック形非常用放送設備 (WL-8000シリーズ、WL-8000Aシリーズ)、業務放送システム (WL-K600) の場合は、最大8台まで設定できます。

ユニットアドレスは、1~4 (1~8) の間で抜けや重複のないように、必ず1から順に設定してください。

(工場出荷時設定：1)

※9~16は将来拡張用です。割り当てないでください。

工場出荷時または設定初期化後のユニットアドレス設定

1 [電源] スイッチを「入」にする

右画面が表示されます。



- ユニットアドレスが設定されていない状態 (工場出荷時または設定初期化後) では、電源投入時に、「ユニットアドレス設定」画面に自動的に移行します。

2 [選択] ダイヤルを回し、ユニットアドレスを選択する

3 [決定] スイッチを押す



- ユニットアドレスの設定を保存して、再起動を行います。

ユニットアドレス設定画面

ユニット アドレス
>01

選択



ユニット アドレス
>01

決定

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>ユニット アドレス

ユニット設定メニューについて

ユニットアドレスの変更

ユニットアドレスの変更のしかたを以下に示します。

1 ユニット設定メニューを表示し、「ユニットアドレス」を表示する

2 [決定] スイッチを押す

「ユニットアドレス設定」画面が表示されます。

3 [選択] ダイアルを回し、「01」～「04」（「01」～「08」）を選択する

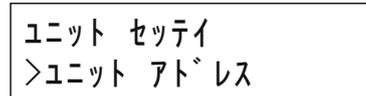
4 [決定] スイッチを押す



- [決定] スイッチを押さないと、設定した内容に変更されません。ユニットアドレスを設定しないときは、[取消] スイッチを押してユニット設定メニューに戻ります。

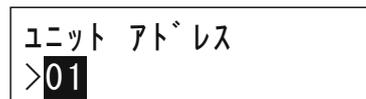
5 「ユニット設定メニューの終了」（37ページ）にしたがって設定を保存する

ユニット設定メニュー



[決定] ↓ ↑ [取消]

ユニットアドレス設定画面

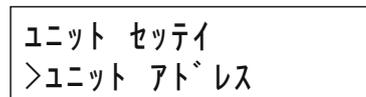


選択



[決定]

ユニット設定メニュー



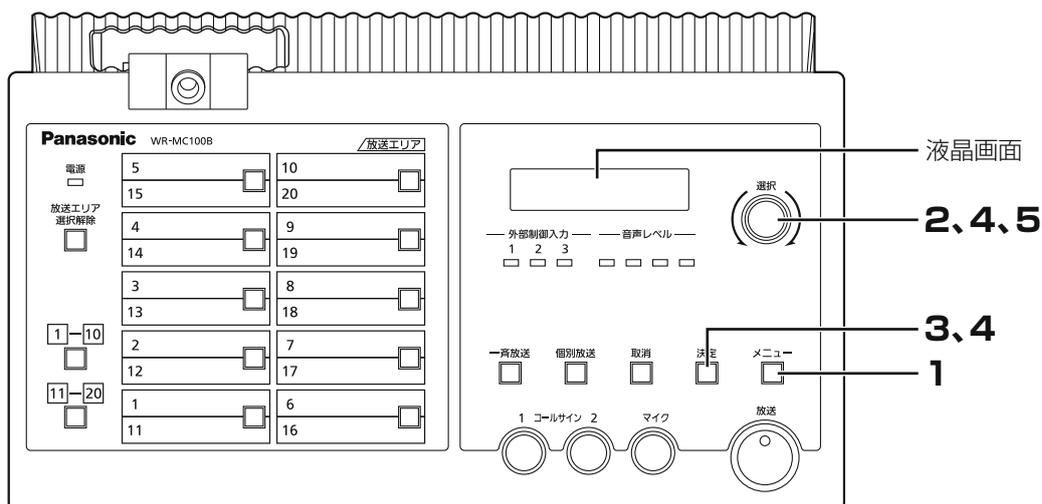
ユニット設定メニューの表示

ユニット設定メニューで各種設定を行います。

※ 4桁のパスワードが必要です。（初期パスワード：0000）



- 動作モードの設定が正しくないときや、主装置側との通信ができないときに、全表示灯が点灯してメニュー操作ができない場合があります。[取消] スイッチを押すと操作ができるようになります。



1 [メニュー] スイッチを押し、メインメニューを表示する

2 [選択] ダイヤルを回し、「ユニット セッテイ メニュー」を表示する

[選択] ダイヤルを回すたびに、メニューが変わります。
「マイク VOL」 (14ページ)

↓
「ユニット セッテイ」

↓
「ユニット テンケン」 (51ページ)

3 [決定] スイッチを押す

「パスワード」画面が表示されます。

4 選択ダイヤルを回し、パスワードを入力する

ダイヤルを回すと数字が選択されます。[決定] スイッチを押すと数字が確定し、カーソルが移動します。4つ目の数字を入力すると、ユニット設定メニューが表示されます。上段に「ユニット セッテイ」、下段に設定項目が表示されます。



- [決定] スイッチの代わりに [選択] ダイヤルを押してもパスワードを入力することができます。

5 [選択] ダイヤルを回し、設定項目を選ぶ

[選択] ダイヤルを回すたびに、各設定項目が表示されます。
(34、38～50ページ)

メインメニュー

メインメニュー *.***
>マイク VOL

選択



メインメニュー *.***
>ユニット セッテイ

決定 ↓

↑ 取消

パスワード
>****

選択



決定 ↓

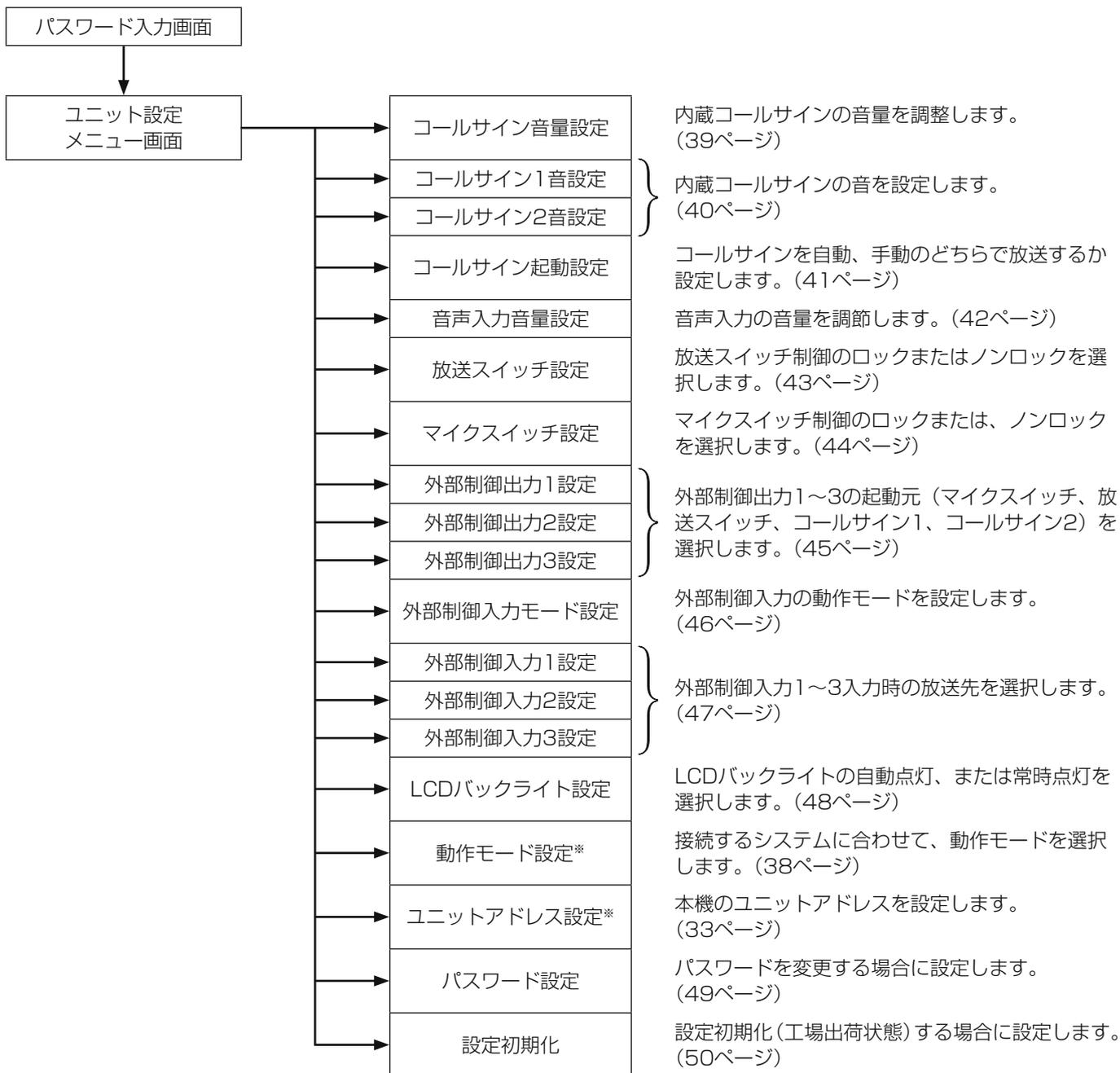
ユニット セッテイ
>コールサイン VOL

選択



ユニット設定メニューについて

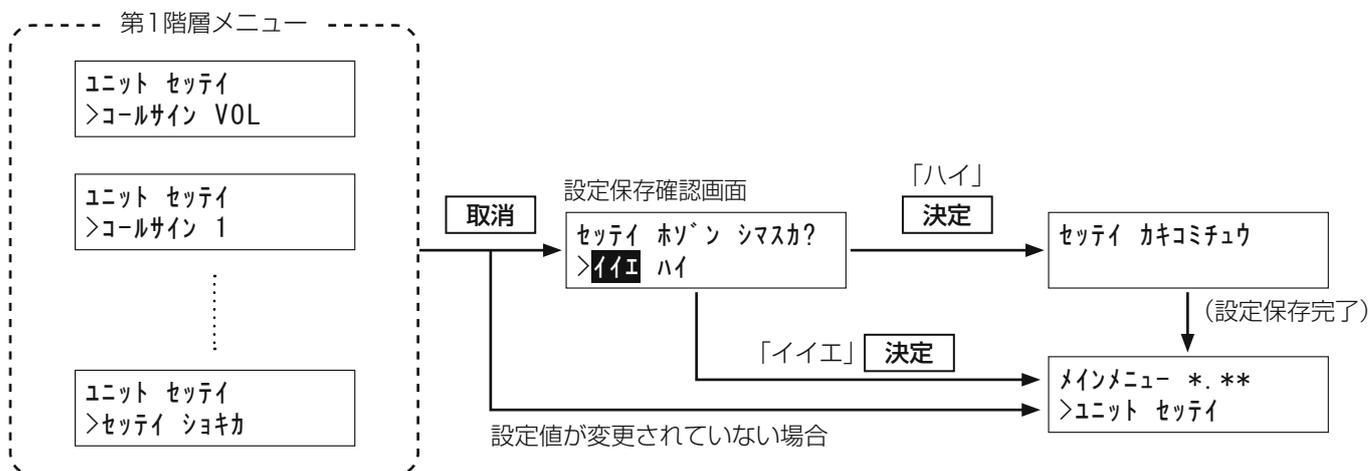
ユニット設定メニューでは、下表の項目を設定できます。



※ 動作モード設定とユニットアドレス設定は、設置工事時に必ず正しい設定であることを確認してください。

ユニット設定メニューの終了

ユニット設定メニューを終了させるにはユニット設定の第1階層の「メニュー選択」画面で「取消」スイッチを押します。今日の階層にいるかわからない場合は、「取消」スイッチを数回押すと第1階層の「メニュー選択」画面に戻ることができます。



- 重要**
- ユニットアドレス、または、動作モードの設定変更時は再起動を行います。
 - 設定を保存する場合は「設定保存確認」画面で「ハイ」を選択してください。複数の設定を変更した場合はまとめて保存することができます。
 - 設定を保存せずに設定メニューを抜ける場合は「設定保存確認」画面で「イイエ」を選択してください。

ユニット設定

動作モードの設定

接続する主装置によって、動作モードを設定します。

A : WK-EK*** : 壁掛形非常用放送設備 (WK-EK110、WK-EK115、WK-EK120、WK-EK110A、WK-EK115A、WK-EK120A、WK-EK310、WK-EK320、WK-EK330)

B : WL-8000/K600 : ラック形非常用放送設備 (WL-8000シリーズ、WL-8000Aシリーズ)、業務放送システム (WL-K600)
(工場出荷時設定 : B : WL-8000/K600)

1 ユニット設定メニューを表示し、「ドウサモード」を表示する (34ページ)

2 [決定] スイッチを押す

3 [選択] ダイヤルを回し、「A : WK-EK***」または「B : WL-8000/K600」を選択する

4 [決定] スイッチを押す



- [決定] スイッチを押さないと、設定した内容に変更されません。動作モードを変更しないときは、[取消] スイッチを押してユニット設定メニューに戻ります。

5 「ユニット設定メニューの終了」 (37ページ) にしたがって設定を保存する



- 動作モードの設定が正しくない場合、電源を入れたときに「ドウサモードイジョウ モードヲカクニンシテクダサイ」と液晶画面に表示されます。[取消] スイッチを押すと表示が消えて「エリア選択」画面に移行しますが、必ず正しい動作モードに設定しなおしてください。

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ >ドウサモード



動作モード設定画面

ドウサモード セッテイ >B : WL-8000/K600

選択



決定

ユニット セッテイ >ドウサモード

コールサイン音量の設定

コールサインの音量を調節できます。放送しながら調節できます。
音量バー0~10点灯表示（工場出荷時設定：音量バー4点灯）

1 ユニット設定メニューを表示し、「コールサイン VOL」を表示する（34ページ）

2 [決定] スイッチを押す

「コールサイン音量設定」画面が表示されます。

3 [選択] ダイアルを回し、音量を調節する

右へ回すと音量が大きくなり、左へ回すと音量が小さくなります。■が多いほど音量の設定が大きくなります。最小（■がない）設定のときは、音は出ません。

[コールサイン1]、[コールサイン2] スイッチを押すとコールサインが再生され、音声レベルメーターでコールサインの音声レベルを確認することができます。

4 [決定] スイッチを押す



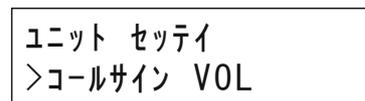
- [決定] スイッチを押さないと、設定した内容に変更されません。音量を変更しないときは、[取消] スイッチを押してユニット設定メニューに戻ります。

5 「ユニット設定メニューの終了」（37ページ）にしたがって設定を保存する



- 接続している壁掛形非常用放送設備（WK-EK110、WK-EK115、WK-EK120、WK-EK110A、WK-EK115A、WK-EK120A、WK-EK310、WK-EK320、WK-EK330）でコールサイン音の設定が「オリジナル1」または「オリジナル2」のときは、本機の音量設定は無効となります。コールサインは、壁掛形非常用放送設備で設定した音量で放送されます。
- 接続しているラック形非常用放送設備（WL-8000シリーズ、WL-8000Aシリーズ）で、マルチリモコンマイクのコールサインをリモコン内蔵音源に設定しなければ、本機の音量設定は無効になります。この場合コールサインはラック形非常用放送設備（WL-8000シリーズ、WL-8000Aシリーズ）で設定したコールサインが放送されます。

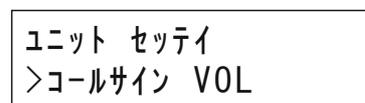
ユニット設定メニュー



コールサイン音量設定画面



ユニット設定メニュー



コールサイン1音、2音の設定

コールサイン1、2の音を4種類の中から設定できます。

工場出荷時設定：[コールサイン1] スイッチ 上り4音 A

[コールサイン2] スイッチ 下り4音 A

番号	コールサイン音
01	上り4音 A
02	下り4音 A
03	上り4音 B
04	下り4音 B

1 ユニット設定メニューを表示し、「コールサイン1」または「コールサイン2」を表示する (34ページ)

2 [決定] スイッチを押す

「コールサイン1設定」または「コールサイン2設定」画面が表示されます。

3 [選択] ダイヤルを回し、コールサイン音 (「01」～「04」) を選択する

4 [決定] スイッチを押す



- [決定] スイッチを押さないと、設定した内容に変更されません。コールサイン音を変更しないときは、[取消] スイッチを押してユニット設定メニューに戻ります。

5 「ユニット設定メニューの終了」 (37ページ) にしたがって設定を保存する

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>コールサイン 1

決定

取消

コールサイン1設定画面

コールサイン 1
>01

選択



決定

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>コールサイン 1



- 接続している壁掛形非常用放送設備 (WK-EK110、WK-EK115、WK-EK120、WK-EK110A、WK-EK115A、WK-EK120A、WK-EK310、WK-EK320、WK-EK330) でオリジナルのコールサイン音源を設定した場合は、本機のコールサイン設定は無効になります。
- 接続しているラック形非常用放送設備 (WL-8000シリーズ、WL-8000Aシリーズ) で、マルチリモコンマイクのコールサインをリモコン内蔵音源に設定しなければ、本機の音量設定は無効になります。この場合コールサインはラック形非常用放送設備 (WL-8000シリーズ、WL-8000Aシリーズ) で設定したコールサインが放送されます。

コールサイン起動の設定

コールサインの起動を手動で行うか、自動で行うか設定できます。

- 手動は、[コールサイン1] スイッチ / [コールサイン2] スイッチを押すとコールサインが放送されます。
- 自動は、放送スイッチと連動して、自動的にコールサインが放送されます。(工場出荷時設定：手動)
- 外部音源機器からの放送は、本設定の対象外です。自動的にコールサインは放送されません。

1 ユニット設定メニューを表示し、「コールサインキドウ」を表示する (34ページ)

2 [決定] スイッチを押す

「コールサイン起動設定」画面が表示されます。

3 [選択] ダイヤルを回し、「シュドウ」または「ジドウ」を選択する

4 [決定] スイッチを押す



- [決定] スイッチを押さないと、設定した内容に変更されません。コールサイン起動を変更しないときは、[取消] スイッチを押してユニット設定メニューに戻ります。

5 「ユニット設定メニューの終了」 (37ページ) にしたがって設定を保存する

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>コールサイン キドウ

決定 ↓ ↑ 取消

コールサイン起動設定画面

コールサイン キドウ
>シュドウ ジドウ

選択



決定 ↓

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>コールサイン キドウ

音声入力音量の設定

本機の「音声入力」端子に接続された外部音源機器の音量を調節できます。放送しながら、調節できます。
音量バー0～10点灯表示（工場出荷時設定：音量バー4点灯）

1 ユニット設定メニューを表示し、「オンセイ ニュウリョク VOL」を表示する（34ページ）

2 [決定] スイッチを押す

「音声入力音量設定」画面が表示されます。

3 [選択] ダイヤルを回し、音量を調節する

右へ回すと音量が大きくなり、左へ回すと音量が小さくなります。■が多いほど音量の設定が大きくなります。
音声入力端子から音声を入力すると、音声レベルメーターで音声入力の音声レベルを確認することができます。

4 [決定] スイッチを押す



- [決定] スイッチを押さないと、設定した内容に変更されません。音量を変更しないときは、[取消] スイッチを押してユニット設定メニューに戻ります。

5 「ユニット設定メニューの終了」（37ページ）にしたがって設定を保存する

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>オンセイ ニュウリョク VOL

決定

取消

音声入力音量設定画面

オンセイニュウリョクVOL
■■■■

選択



決定

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>オンセイ ニュウリョク VOL

放送スイッチの設定

[放送] スwitchの制御方式を、ロック式で行うかノンロック式で行うかを設定できます。ロック式は、スイッチを押すたびにON/OFFが切り替わります。ノンロック式は、スイッチを押している間だけONになります。

(工場出荷時設定：ロック式)

1 ユニット設定メニューを表示し、「ホウソウスイッチ」を表示する (34ページ)

2 [決定] スwitchを押す

「放送スイッチ設定」画面が表示されます。

3 [選択] ダイヤルを回し、「ロック」または「ノンロック」を選択する

4 [決定] スwitchを押す



- [決定] スwitchを押さないと、設定した内容に変更されません。放送スイッチを変更しないときは、[取消] スwitchを押してユニット設定メニューに戻ります。

5 「ユニット設定メニューの終了」 (37ページ) にしたがって設定を保存する

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>ホウソウ スイッチ

決定 ↓ ↑ 取消

放送スイッチ設定画面

ホウソウ スイッチ
>ロック ノンロック

選択



決定 ↓

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>ホウソウ スイッチ

マイクスイッチの設定

[マイク] スwitchの制御方式をロック式、ノンロック式のどちらかに設定できます。ロック式は、スイッチを押すたびにON/OFFが切り替わります。ノンロック式は、スイッチを押している間だけONになります。

(工場出荷時設定：ロック式)

1 ユニット設定メニューを表示し、「マイクスイッチ」を表示する (34ページ)

2 [決定] スwitchを押す

「マイクスイッチ設定」画面が表示されます。

3 [選択] ダイヤルを回し、「ロック」または「ノンロック」を選択する

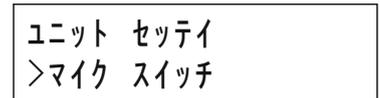
4 [決定] スwitchを押す



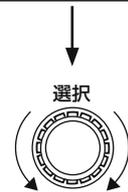
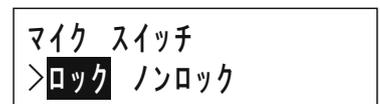
- [決定] スwitchを押さないと、設定した内容に変更されません。マイクスイッチを変更しないときは、[取消] スwitchを押してユニット設定メニューに戻ります。

5 「ユニット設定メニューの終了」 (37ページ) にしたがって設定を保存する

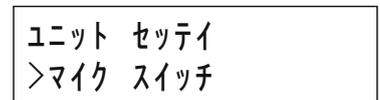
ユニット設定メニュー



マイクスイッチ設定画面



ユニット設定メニュー



外部制御出力1、2、3の設定

外部制御出力1、2、3の起動元を [マイク] スイッチ、[放送] スイッチ、[コールサイン1/2] スイッチの中から選択します。各スイッチを押すと、[外部制御出力] 端子が動作しメイク状態になります。
(工場出荷時設定：OFF (なし))

1 ユニット設定メニューを表示し、「セイギョ シュツリョク 1」または「セイギョ シュツリョク 2」、「セイギョ シュツリョク 3」を表示する (34ページ)

2 [決定] スイッチを押す

「制御出力1設定」、「制御出力2設定」または「制御出力3設定」画面が表示されます。

3 [選択] ダイアルを回し、「OFF」「コールサイン 1」「コールサイン 2」「ハウソウ スイッチ」「マイク スイッチ」の中から選択する

4 [決定] スイッチを押す



- [決定] スイッチを押さないと、設定した内容に変更されません。外部制御出力を変更しないときは、[取消] スイッチを押してユニット設定メニューに戻ります。

5 「ユニット設定メニューの終了」 (37ページ) にしたがって設定を保存する

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>セイギョ シュツリョク 1

決定

取消

外部制御出力設定画面

セイギョ シュツリョク 1
>OFF

選択



決定

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>セイギョ シュツリョク 1

外部制御入力モードの設定

デジタルICレコーダーやプログラムICレコーダー（別売品）などからの信号により、外部音源機器の音声を本機から放送できます。外部制御入力の動作モードは「放送起動モード」と「外部コールサインモード」の2種類があります。

（工場出荷時設定：放送起動モード）

■ 放送起動モード

本機に接続されたデジタルICレコーダーやプログラムICレコーダーなどの外部音源機器の出力信号をもとに外部音源機器の音声を放送します。外部制御入力により放送を行うためには放送先が必要です。設定は「外部制御入力1、2、3の設定」（47ページ）をお読みください。



- 本機が放送可能な状態で、[外部制御入力] 端子がメイクされると、[音声入力] に入力された音声は放送されます。本機が放送不可の状態、[外部制御入力] 端子がメイクされた場合は、[音声入力] に入力された音声は放送されません。本機が放送可能になってから、[外部制御入力] 端子をメイクしなおしてください。
- 外部制御入力1~3はそれぞれ異なる放送エリアを設定することができます。
- 複数の外部制御入力は同時に動作することが可能です。この場合、それぞれの外部制御入力に設定されているスピーカー回線から放送されます。
- 音声の頭切れが発生する場合はデジタルICレコーダーやプログラムICレコーダーのディップスイッチで再生遅延時間の調整を行ってください。詳しくは、デジタルICレコーダーやプログラムICレコーダーの取扱説明書をお読みください。

■ 外部コールサインモード

[コールサイン1]、または [コールサイン2] スイッチを押したときに [外部制御出力1]、または [外部制御出力2] 端子をメイクし、本機に接続されたデジタルICレコーダーの音源を再生します。外部音源機器に内蔵されたコールサイン音を本機のコールサインとして使うことができます。



- 外部制御入力モードの設定を「外部コールサインモード」に設定すると「外部制御出力1、2、3の設定」（45ページ）および「外部制御入力1、2、3の設定」（47ページ）は無効になります。また、[コールサイン] スイッチを押しても本機内蔵のコールサインは再生されません。
- 外部コールサインモードで使用する場合はコールサイン起動設定を「自動」で使用しないでください。外部機器のコールサイン音が正しく放送されない場合があります。

1 ユニット設定メニューを表示し、「ガイブセイギョモード」を表示する（34ページ）

2 [決定] スイッチを押す

「外部制御入力モード設定」画面が表示されます。

3 [選択] ダイヤルを回し、「ハウソウキドウ」または「ガイブコールサイン」を選択する

4 [決定] スイッチを押す



- [決定] スイッチを押さないと、設定した内容に変更されません。外部制御入力モードを変更しないときは、[取消] スイッチを押してユニット設定メニューに戻ります。
- 外部音源機器から放送中に外部制御入力モードの設定を変更すると、外部音源機器からの放送が停止されます。

5 「ユニット設定メニューの終了」（37ページ）にしたがって設定を保存する

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
> ガイブセイギョモード

決定 ↓ ↑ 取消

外部制御入力モード設定画面

ガイブセイギョモード
> ハウソウキドウ

選択



決定 ↓

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
> ガイブセイギョモード

外部制御入力1、2、3の設定

外部制御入力モード設定で放送起動モードを選択したときに各 [外部制御入力] 端子に接続された外部音源機器（デジタルICレコーダーなど）の放送先を設定します。放送先は「エリア選択」スイッチの放送先から選択することができます。（工場出荷時設定：ナシ）

1 ユニット設定メニューを表示し、「セイギョ ニュウリョク 1」または「セイギョ ニュウリョク 2」、「セイギョ ニュウリョク 3」を表示する（34ページ）

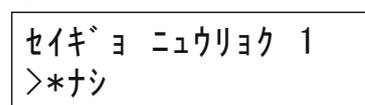
ユニット設定メニュー



2 [決定] スイッチを押す

[外部制御入力1]、[外部制御入力2] または [外部制御入力3] 設定画面が表示されます。

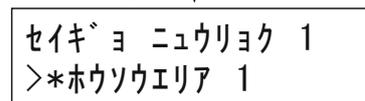
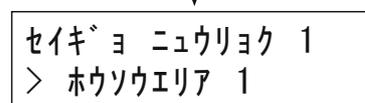
外部制御入力設定画面



3 [選択] ダイヤルを回し、放送先となる放送エリアを選択する



- 外部制御入力の放送先は [放送エリア] スイッチの放送先から選択します。[放送エリア] スイッチの放送先は主装置側で設定します。



決定 ↓ ↑ 取消

4 [選択] ダイヤルを押し、放送先となる放送エリアを選択する

放送エリアは複数選択できます。

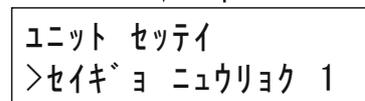
[選択] ダイヤルを回して放送エリアを切り替え、放送したい放送エリアが表示されたら、[選択] ダイヤルを押して、放送エリアの左に「*」を表示させ選択状態にします。（再度 [選択] ダイヤルを押すと「*」は消え、選択状態は解除されます。）

5 [決定] スイッチを押す



- [決定] スイッチを押さないと、設定した内容に変更されません。外部制御入力を変更しないときは、[取消] スイッチを押してユニット設定メニューに戻ります。
- 外部音源機器から放送中に外部制御入力1、2、3の設定を変更すると、外部音源機器からの放送が停止されます。

6 「ユニット設定メニューの終了」（37ページ）にしたがって設定を保存する



液晶（LCD）バックライトの設定

液晶のバックライトを使用する環境に合わせて切り換えることができます。

AUTOにすると、本機のスイッチを約1分操作しないと、自動的にバックライトが消灯します。本機のスイッチを操作すると点灯します。

ON/AUTO（工場出荷時設定：AUTO）

1 ユニット設定メニューを表示し、「LCD バックライト」を表示する（34ページ）

2 [決定] スイッチを押す

「LCDバックライト設定」画面が表示されます。

3 [選択] ダイヤルを回して、設定する

選択したい項目にカーソルを移動させます。

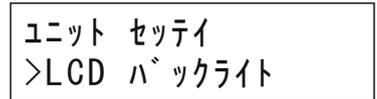
4 [決定] スイッチを押す



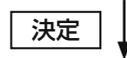
- [決定] スイッチを押さないと、設定した内容に変更されません。設定を変更しないときは、[取消] スイッチを押してユニット設定メニューに戻ります。

5 「ユニット設定メニューの終了」（37ページ）にしたがって設定を保存する

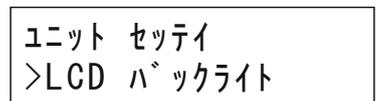
ユニット設定メニュー



LCDバックライト設定画面



ユニット設定メニュー



パスワードの設定

パスワードを変更する場合、新しいパスワードを設定します。初期状態は、登録済みのパスワードが表示されます。登録できるのは、4桁までです。

(工場出荷時設定：0000)

1 ユニット設定メニューを表示し、「パスワード」を表示する (34ページ)

2 [決定] スイッチを押す

「パスワード設定」画面が表示されます。

3 [選択] ダイヤルを回し、選択のたびに [決定] スイッチを押して新しいパスワード4桁を入力する



- [決定] スイッチの代わりに [選択] ダイヤルを押してもパスワードを入力することができます。
- [取消] スイッチを押すと一つ前の桁に戻ることができます。

4 [決定] スイッチを押す



- [決定] スイッチを押さないと、設定した内容に変更されません。パスワードを設定しないときは、[取消] スイッチを押してユニット設定メニューに戻ります。

5 「ユニット設定メニューの終了」 (37ページ) にしたがって設定を保存する

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>パスワード

決定 ↓ ↑ 取消

パスワード設定画面

パスワード
>****

↓

選択



決定 ↓

ユニット設定メニュー

ユニット セッテイ
>パスワード

設定の初期化

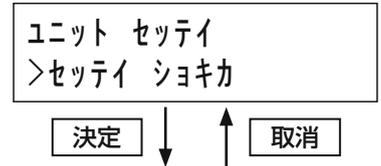
本機的全設定を工場出荷状態に戻します。

- 1** ユニット設定メニューを表示し、「セッテイ ショキカ」を表示する（34ページ）
- 2** **〔決定〕** スイッチを押す
「設定初期化」画面が表示されます。
- 3** **〔選択〕** ダイアルを回して、設定する
「ハイ」にカーソルを移動させます。
- 4** **〔決定〕** スイッチを押す

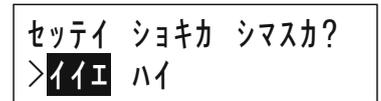


- 「ハイ」を選択しても**〔決定〕** スイッチを押さないと、設定初期化されません。

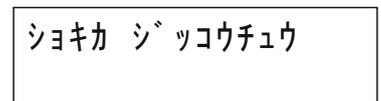
ユニット設定メニュー



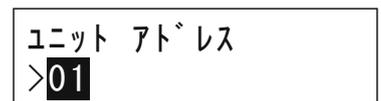
設定初期化画面



初期化実行中画面



ユニットアドレス設定画面



ユニット点検

ユニット点検で次の項目を点検できます。

項目	概要
電源電圧チェック	本機に供給されている電源の電圧を確認できます。
バージョン番号表示	本機ソフトウェアのバージョンを表示します。

電源電圧のチェック

1 [メニュー] スイッチを押し、メインメニューを表示する

2 [選択] ダイヤルを回し、「ユニット テンケン」を表示する

3 [決定] スイッチを押し
「パスワード設定」画面が表示されます。

4 [選択] ダイヤルを回し、選択のたびに [決定] スイッチを押し、4桁のパスワードを入力する



- [決定] スイッチの代わりに [選択] ダイヤルを押し、パスワードを入力することができます。

5 [決定] スイッチを押し
「電源電圧チェック」画面が表示されます。

6 [決定] スイッチを押し
電源電圧のチェック結果が表示されます。±1 V程度の誤差がありますので、目安としてお使いください。

7 [決定] スイッチまたは [取消] スイッチを押し
「電源電圧チェック」画面に戻ります。

メインメニュー

メインメニュー *.*.*
>マイク VOL

選択



メインメニュー

メインメニュー *.*.*
>ユニット テンケン

決定

取消

パスワード入力画面

パスワード
>****

選択



決定

取消

電源チェック画面

ユニット テンケン
>デンアツ チェック

決定

取消

電源電圧チェック結果画面

デンアツ チェック
..*V

メインメニュー

メインメニュー *.*.*
>マイク VOL

バージョン番号の表示

メインメニュー画面を表示すると、ソフトのバージョン番号「*.*.*」が表示されます。

必要なとき

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で現象を確かめてください。

これらの対策をしても直らないときやわからないとき、この表以外の現象が起きたときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

現象	原因・対策	参照ページ
本機から放送ができない	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源表示灯が点灯していますか？ <ul style="list-style-type: none"> ➔ 消灯の場合、本機に電源が供給されていません。本機前面の「電源」スイッチが「入」になっているか確認してください。本機を接続した主装置の電源が入っているか確認してください。ACアダプター（別売り）を使用した場合は、アダプターが接続されているか確認してください。 	7, 8
	<ul style="list-style-type: none"> ● 非常用放送設備から非常放送が放送されていませんか？ <ul style="list-style-type: none"> ➔ 非常用放送設備からの電源供給が止まります。ACアダプターを使用している場合は、液晶画面に「ヒジョウ ホウソウチュウ」と表示されます。 	9
	<ul style="list-style-type: none"> ● 液晶表示が、「キンキュウ ホウソウチュウ」になっていませんか？ <ul style="list-style-type: none"> ➔ 主装置が緊急放送中の場合には、本機からの放送はできません。 	9
	<ul style="list-style-type: none"> ● 本機より優先順位の高い機器が放送中になっていませんか？ <ul style="list-style-type: none"> ➔ 本機より優先順位の高い機器が放送されている場合は、本機からの放送はできません。優先順位の設定状態はシステムによって異なります。放送中の機器については液晶画面に表示されます。 	9
	<ul style="list-style-type: none"> ● 液晶表示が、「テンケンモード チュウ」になっていませんか？ <ul style="list-style-type: none"> ➔ 主装置側で点検モードによる点検作業をしている場合には、本機からの放送はできません。 	9
放送音量が大きい（小さい）	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 本機は、マイク音量の調節機能を持っています。「マイク VOL」画面で適切な音量に調節してください。さらに、ユニット設定により「コールサイン音量」、「音声入力音量」の調節が可能です。ユニット設定にはパスワードが必要です。 	14, 39, 42
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源接続端子が接続されていますか？ <ul style="list-style-type: none"> ➔ 電源接続端子を接続します。 	16
	<ul style="list-style-type: none"> ● ACアダプターが接続されていますか？（主装置から電源供給していないシステムの場合） <ul style="list-style-type: none"> ➔ ACアダプターを「DC入力24 V」ジャックに接続します。 	7, 8
「ドウサモードイジョウ モードヲカクニンシテクダサイ」が液晶画面に表示された	<ul style="list-style-type: none"> ● 主装置に合ったモード設定が必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ➔ 「取消」スイッチを押して、主装置に合った正しい設定をしてください。例えば、動作モードが「B: WL-8000/K600」に設定されている場合、WK-EK110に接続しても正常に動作しません。 	38
「パスワード ガチガイマス」が液晶画面に表示された	<ul style="list-style-type: none"> ● ユニット設定を行うには、パスワードが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ➔ 「取消」スイッチを押して、正しいパスワードを入力してください。パスワードは、製品出荷時には「0000」に設定されています。 	49
マイク放送ができない	<ul style="list-style-type: none"> ● [マイク] スイッチが点灯していますか？ <ul style="list-style-type: none"> ➔ [マイク] スイッチを押します。 	7, 8
	<ul style="list-style-type: none"> ● [放送] スイッチが点灯していますか？ <ul style="list-style-type: none"> ➔ [放送] スイッチを押します。 	7, 8
	<ul style="list-style-type: none"> ● [放送エリア] スイッチが緑色に点灯していますか？ <ul style="list-style-type: none"> ➔ 放送したい放送エリアのスイッチを押します。橙色のときは、本機より優先順位の高い放送が行われていますので、放送が終了してから本機からの放送ができます。 	7

現象	原因・対策	参照ページ
液晶画面に「エラーハッセイ (ツウシンエラー)」、または 「モウイチド ソウサシテクダ サイ」と表示される	<ul style="list-style-type: none"> ● 主装置の電源は入っていますか？ ➔ 主装置の電源を入れます。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> ● 各端子は正しく接続されていますか？ ➔ 接続を確認します。 	22～32
	<ul style="list-style-type: none"> ● 本機のユニットアドレスが正しく設定されていますか？ ➔ [取消] スイッチを押して、正しいユニットアドレスを設定します。 	33
	<ul style="list-style-type: none"> ● 主装置側でマルチリモコンマイクの台数が設定されていますか？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 壁掛形非常用放送設備の場合 ➔ 主装置側でマルチリモコンマイクの台数を書き込み設定します。 ・ ラック形非常用放送設備の場合 ➔ 主装置側でマルチリモコンマイクの台数を書き込み設定します。 ・ 業務放送システムの場合 ➔ 主装置側でマルチリモコンマイクの台数を書き込み設定します。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> ● 動作モードは正しく設定されていますか？ ➔ 主装置に合わせた動作モードを設定します。 	38
	<ul style="list-style-type: none"> ● 主装置とほかの機器との通信が混雑し、本機からの操作が受け付けられなかった可能性があります。 ➔ 再度、操作をしてください。 	—

仕様

電源	DC24 V、250 mA 接続する主装置、または別売のACアダプター (WZ-MC100B) より供給
使用温度範囲	0 °C ~ +50 °C
寸法	幅280 mm 高さ55 mm 奥行き150 mm (マイク他の突起部含まず)
質量	約1 kg
仕上げ	本体部 : AVライトグレー樹脂色 マンセルN8近似色 台座部 : グレー樹脂色 マンセルN3.5近似色
マイクロホン	ECM内蔵350 mmフレキシブルマイクロホン
音声入力	ピンジャック、2系統 (内部でモノラルミックス)、不平衡 入力感度 : -2 dBV 入力インピーダンス : 20 kΩ 周波数範囲: 50 Hz ~ 20 kHz
主装置音声出力	ねじ端子、3極1系統、電子バランス 出力レベル: -2 dBV 周波数範囲: 50 Hz ~ 20 kHz
音声出力	ピンジャック、1系統 (モノラル)、不平衡 出力レベル: -2 dBV 適合負荷インピーダンス : 10 kΩ以上 周波数特性: 50 Hz ~ 20 kHz
外部制御入力	ねじ端子、3回路 (COM共通)、PNPトランジスタ入力、無電圧メイク接点に対応 開放電圧 : 5 V 短絡電流 : 2 mA
外部制御出力	ねじ端子、3回路 (COM共通)、フォトカプラによるオープンコレクター出力 制御電圧 : 35 V 制御電流 : 15 mA
通信方式	RS-485、1系統、半2重方式
最大接続数	8台 : WL-8000、WL-8500、WL-8000A、WL-8500A、WL-K600 4台 : WK-EK110、WK-EK115、WK-EK120、 WK-EK110A、WK-EK115A、WK-EK120A WK-EK310、WK-EK320、WK-EK330
コールサイン	4種 (出荷時: 上り4音 A、下り4音 A)
モニター用スピーカー	内蔵
音声レベル表示	4点レベルメーター
表示素子	液晶表示 16文字×2行
角度調節	本体部 : -5° ~ 15°、5° ステップ マイク部 : 0° または90°
設置	壁取り付け時は台座を壁に取り付け可能。対応するスイッチボックス: JIS 2個用

※ 本機を接続する主装置の機種やシステムの規模によっては、ACアダプターWZ-MC100B (別売品) が必要になります。

保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電話	() -
お買い上げ日	年 月 日

修理を依頼されるときは

「故障かな!？」(52～53ページ)でご確認のあと、直らないときは、本機の電源スイッチを「切」にしてから、ACアダプターを接続している場合はACアダプターを抜き、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

- 製品名 マルチリモコンマイク
- 品番 WR-MC100B
- 故障の状況 できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整・点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

長期間使用に関するお願い

安全にお使いいただくために、販売店または施工業者による定期的な点検をお願いします。

本機を長年お使いの場合、外観上は異常がなくても、使用環境によっては部品が劣化している可能性があり、故障したり、事故につながることもあります。

下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。

詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？

- 煙が出たり、こげくさいにおいや異常な音がする。
- 電源コード・電源プラグ・ACアダプターが異常に熱い。または割れやキズがある。
- 製品に触るとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても、音が出てこない。
- その他の異常・故障がある。

直ちに使用を中止してください

故障や事故防止のため、**電源を切り**、必ず販売店または施工業者に**点検**や**撤去**を依頼してください。

必要なとき

オープンソースソフトウェアについて

Revised 3-Clause BSD License for Columbia University Kermit Software

Copyright © 1981-2011,

Trustees of Columbia University in the City of New York.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of Columbia University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** バ ナ ハ ヨ イ フ 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは https://biz.panasonic.com/jp-ja/support_cs-contact

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック コネクト株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号